

○基本計画の名称：鹿児島市中心市街地活性化基本計画（以下「3期計画」という。）

○作成主体：鹿児島県鹿児島市

○計画期間：平成30年4月から令和6年3月まで（6年）

## 1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### [1] 鹿児島市の概況

#### (1) 概況

鹿児島市は、県本土のほぼ中央部に位置し、鹿児島湾（錦江湾）をはさんで対岸にある桜島を含む人口約60万人の南九州の交流拠点都市である。

第二次世界大戦の戦火で市街地の約93%を焼失したが、戦後いち早く戦災復興土地区画整理事業により約1,044haの基盤整備を行い、今日市中心市街地の骨格が形成された。その後、経済の発展とともに市街地は次第に拡大し、昭和42年4月には隣接の谷山市と合併して人口38万人となり、55年7月には人口50万人を突破した。

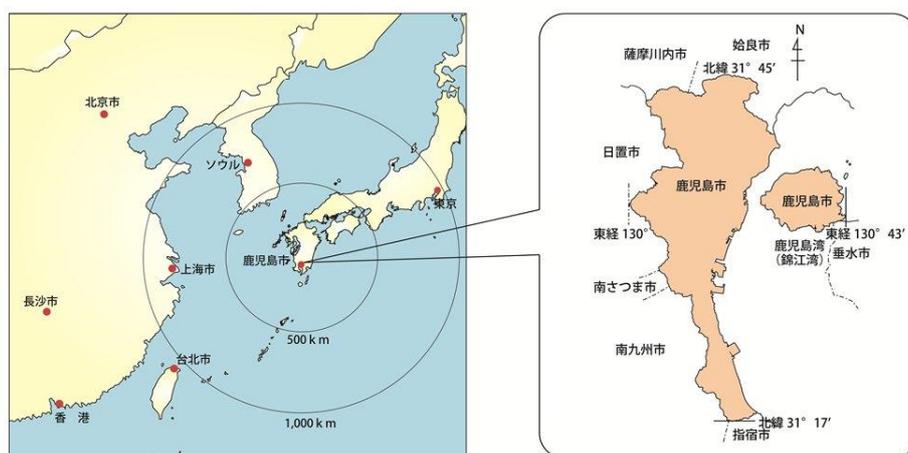
平成8年4月には中核市へ移行し、よりきめ細かな市民サービスの提供と個性豊かな魅力あるまちづくりを積極的に進め、南の拠点都市としてさらなる飛躍を目指すとともに、12年4月の地方分権一括法の施行により、地方分権の時代に対応した地域社会づくりの推進に全力を注いでいる。

16年11月には、周辺の吉田町、桜島町、喜入町、松元町及び郡山町と合併し、新たな一步を踏み出し、人口60万人を突破した。

23年度には、少子高齢化の進行や人口減少への移行、グローバル化の進展、環境問題の進行など歴史的な転換期を迎えていることを踏まえ、時代の潮流に的確に対応し、持続可能な発展を遂げていくため、目指す都市像を「人・まち・みどり みんなで創る“豊かさ”実感都市・かごしま」と定め、第五次総合計画前期基本計画を策定した。

人口は、25年をピークに減少局面へ移行した可能性が高くなっており、27年の国勢調査時点の人口は599,814人であった。

28年度には、総合計画の前期の成果等について検証を行うとともに、国の動向や社会経済情勢の変化、とりわけ人口減少が現実となる中であって地方創生に向けた取組の重要性も踏まえ、第五次総合計画後期基本計画を策定し、市民の豊かさをさらに増幅させるとともに、本市の持続的な発展の基礎を築き、継承するため、諸施策を推進している。



鹿児島市の位置

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

本市の市街地は、標高 100～300mの丘陵地帯に囲まれており、平野部が少ないことから地形的にコンパクトな都市構造となっている。幹線道路網は、市街地中心部から放射状に広がっている。都心部はこれまでの長い歴史の中で、各種商業機能、文化・アミューズメント機能、オフィス・官公庁等の中枢管理機能など様々な高次都市機能が集積する本市のまちな顔として、また南九州随一の繁華街、魅力ある地区として本市の発展に重要な役割を果たしてきた。

しかしながら、都市環境や交通事情の変化、周辺市町等の商業基盤の充実等により、都心部の地位が相対的に低下傾向にあったことから、11年5月に旧中心市街地活性化法に基づく中心市街地活性化基本計画（以下「旧計画」という。）を策定し、16年3月の九州新幹線部分開業を見据えて、鹿児島中央駅周辺の交通結節機能の強化による公共交通の乗り継ぎ利便性の向上や駅ビル建設、地元商店街による共同イベントなどの様々な事業に取り組み、交流人口の拡大によってにぎわいを創出した。

さらに、19年には、鹿児島市中心市街地活性化基本計画（以下「1期計画」という。）を、25年には第2期鹿児島市中心市街地活性化基本計画（以下「2期計画」という。）を策定し、それぞれ国の認定を受けた。1期及び2期計画の10年間で、各種プロジェクトを実施したことにより、市街地再開発ビルの整備、大型商業施設の増床、新市立病院の建設など都市機能の集積が進み、商店街と一体となった多様なイベントに加え、新たな大型イベント等のソフト事業も官民一体となって展開したことで、年間入込観光客数は着実に増加し、歩行者通行量も鹿児島中央駅地区で増加傾向にあるなど、本市の中心市街地は一定の活性化が進んでいる。

### (2) 歴史的・文化的資源

本市は、薩摩・大隅（鹿児島県）、日向（宮崎県）の三国を統治した島津氏の城下町として発展してきた。本市が南九州の中心となったのは、第6代氏久が東福寺城を居城にした時（1340年頃）に始まるといわれている。以来500年余りにわたる島津氏の治世を礎として、本市は南九州一の都市として着実に繁栄と進展の歴史をつくりあげた。

また、大陸や南西諸島に近いという立地条件から、琉球を中継地として早くから貿易が活発に行われ、大陸文化やヨーロッパ文化の門戸ともなった。16世紀の中頃、フランシスコ・ザビエルが上陸し、わが国に初めてキリスト教を伝えたことなどは、その代表的な例といえる。

近世に入ってから、19世紀の中頃、新しいヨーロッパの機械文明を取り入れた研究が進み、第28代斉彬のもと磯地区一帯で反射炉や溶鉱炉が造られ、わが国における近代工業の発祥の地となっている。日本近代化の先駆けとなったこれらの薩摩藩の集成館事業の関連資産は、「明治日本の産業革命遺産」として平成27年7月に世界文化遺産に登録された。

明治4年の廃藩置県とともに県庁所在地となり、22年4月には市制を施行し、わが国で初めて市となった都市の一つである。

本市は、明治維新の原動力となり大いに活躍した西郷隆盛・大久保利通や歴代総理大臣を務めた黒田清隆・松方正義・山本権兵衛、軍人



西郷隆盛銅像

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

の西郷従道・大山巖など、教育界では森有礼（初代文部大臣）、実業界では五代友厚など、文化の面では黒田清輝・藤島武二（洋画家）、有島武郎（小説家）など、幾多の優れた人物を輩出している。

官公庁街に隣接する鹿児島城（鶴丸城）址は、現在、遺構として石垣や堀、西郷隆盛の私学校跡などが残されている。その石垣には西南戦争の際の弾痕が多数残っており、当時の激しい戦いを物語っている。城址には第七高等学校造士館、鹿児島大学医学部などが置かれたのち、現在は鹿児島県立歴史資料センター「黎明館」、鹿児島県立図書館、鹿児島市立美術館などの文化施設が立地し、市民・県民はもとより、多くの観光客が訪れ、鹿児島の歴史や文化を堪能している。また、付近には県内一の参拝客数を誇る照国神社があり、初詣や六月灯（鹿児島の夏の風物詩、県内各地の寺社等で開かれる夏祭り）では多くの人でにぎわう。

市内の中心部を流れる甲突川の左岸地帯は、西郷隆盛、大久保利通らを筆頭とする維新の英傑を輩出した由緒ある地で、ここにある維新ふるさと館や幕末から明治維新の歴史を感じながら散策できる“維新ふるさとの道”にも多くの観光客が訪れている。

これらの歴史的資源や文化施設は、市民にとってかけがえのないものであり、中心市街地の活性化を図る際にも最大限活用していくことが大切である。

### (3) 景観資源

本市は、人口約 60 万人の南九州の中核都市であり、雄大な桜島と波静かな錦江湾に代表される世界に誇れる自然景観や県庁所在地で日本一の源泉数を持つ豊富な温泉を有し、温暖な気候で、都市と自然とが共生する快適な環境の中にある。これらの資源は、市民に癒しと安らぎを与えるかけがえのない財産であると同時に、本市を訪れる人にとっても魅力的な観光資源となっている。



桜島と新幹線

平成 25 年 9 月には、桜島や若尊カルデラを中心とする一帯を範囲とする「桜島・錦江湾ジオパーク」が日本ジオパークに認定された。世界的に稀有な活火山と都市の共生が実現しており、現在、世界ジオパークの認定に向けて取組を進めている。

また、20 年 6 月に施行した鹿児島市景観計画及び景観条例に基づき、城山展望台から桜島への眺望確保など、市民、事業者、行政が一体となって、良好な景観形成に向けたまちづくりに取り組んでいる。

### (4) 社会資本や産業資源

公共公益施設は、市役所等の行政機関や、市立美術館、県立図書館、かごしま近代文学館・メルヘン館等の文化施設が中心市街地に集中して立地している。

このほか、平成 12 年に整備された勤労者交流センターやかごしま市民福祉プラザ、15 年に整備されたかごしま県民交流センター、22 年に整備された観光交流センターは、人、文化、情報等の拠点施設として、市民福祉の増進と交流人口の拡大に寄与している。

鹿児島中央駅地区では、22 年以降、市街地再開発事業による商業・業務複合施設「アエールプラザ」、商業・共同住宅複合施設「アエールタワー」、民間開発による業務・ホテル・バスターミナル等の複合施設「鹿児島中央ターミナルビル」、鹿児島の食文化を提供する「かご

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

つまふるさと屋台村」、駅ビルに隣接する商業施設「アミュプラザ鹿児島プレミアム館」が開業したほか、JT 跡地において、「鹿児島市立病院」、「交通局局舎・電車施設」、「上荒田の杜公園」が供用開始した。いづろ・天文館地区では、20 年に子育て支援施設「親子つどいの広場（なかまっち）」が開設されたほか、21 年 5 月に閉店した三越鹿児島店跡に商業・交流施設「マルヤガーデンズ」や、シネマコンプレックス・商業施設等の複合施設「LAZO 表参道（天文館シネマパラダイス）」が開業したほか、イベント等に活用できるよう「天文館公園」の再整備を行った。上町・ウォーターフロント地区では、公園、広場、駐車場を備えた市民等の憩いの場「かんまちあ（上町ふれあい広場・上町の杜公園）」を整備した。

公共交通は、鉄道・バス・市営電車（市電）・フェリーなどがあり、アクセス手段が充実している。

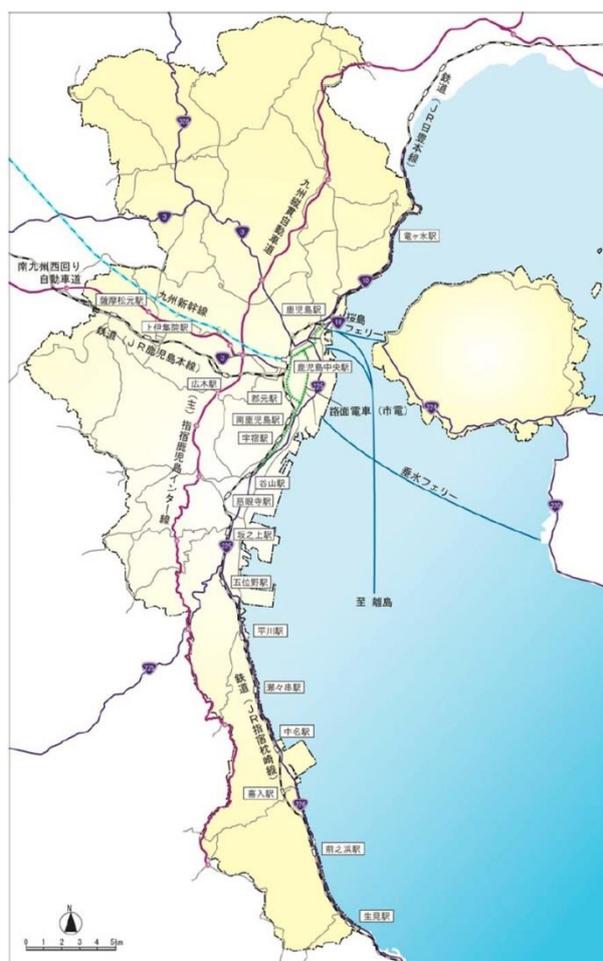
鉄道は、23 年 3 月 12 日に九州新幹線が全線開業し、新大阪駅～鹿児島中央駅が最速 3 時間 41 分で結ばれたことにより、関西・中国方面から多くの観光客が訪れている。

鹿児島空港連絡バスや福岡・熊本・長崎・大分・宮崎方面への都市間高速バス、県内各地に向けて運行されているバスは、いずれも起点が中心市街地に集中している。都市間高速バスは、福岡便が 30～60 分ごとに運行するなど、各方面とも運行本数が多く、運賃も比較的安いことから、新幹線と並んで広域交通手段として広く利用されている。鹿児島中央ターミナルビルには、バスターミナルが整備され、都市間高速バス利用の利便性が向上した。

市域内の路線バスも数多く運行され、その多くが中心市街地を起点・終点または経由地としている。特に電車通りの高見馬場～金生町はバス路線が集中している。

本市の観光資源の一つにもなっている市電は 2 系統で運行され、両系統ともに中心市街地に立地する鹿児島駅前を起点・終点とし、多くの停留場を設けている。

大型貨客船等が行き交う鹿児島港は、24 時間運航で世界屈指の乗客数を誇る桜島フェリーや、世界自然遺産の屋久島や種子島とを結ぶ高速船のターミナルを有するほか、県内離島や沖縄への商業港としての拠点性があり、物流面においても生産地と消費地が近接しているといった優位な特性がある。また、本港区北ふ頭では、国際クルーズ船を受け入れられるよう、保安施設の整備等を行った。



鹿児島市の公共交通網

〔2〕地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

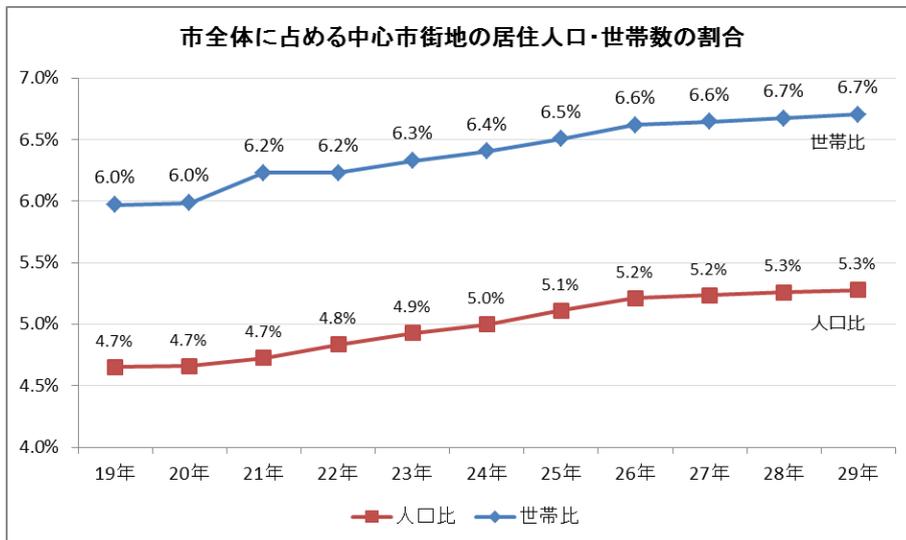
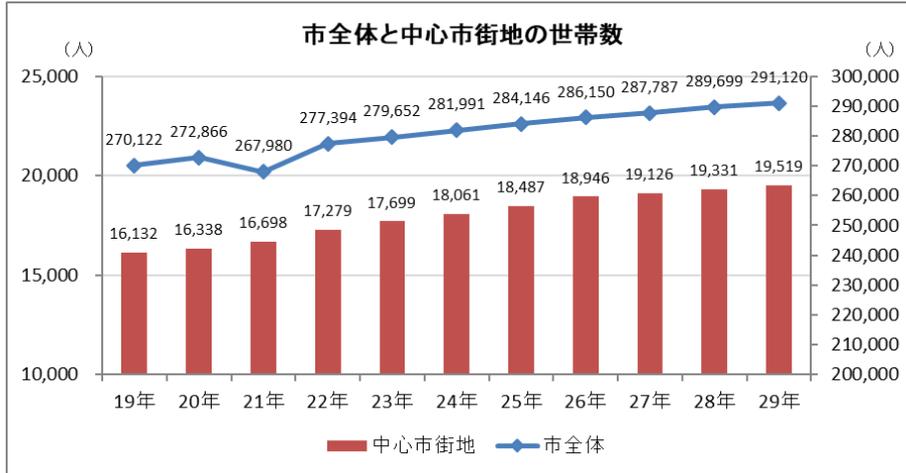
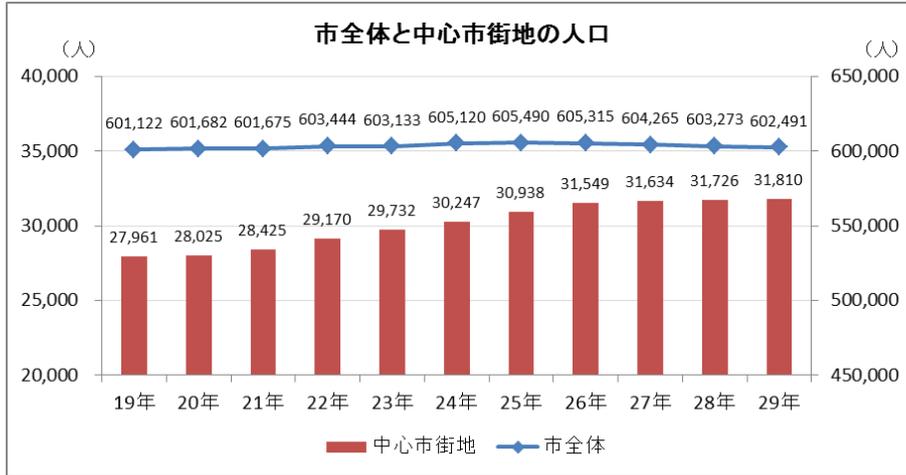
(1) 人口動態に関する状況

① 市全体と中心市街地の人口・世帯数

本市の人口は平成25年まで増加を続け、その後減少に転じている。

一方、中心市街地の人口は、1期計画による市街地再開発事業などの街なか居住の推進や、民間マンションの建設等によって増加傾向が続いている。

また、人口・世帯数共に、市全体に占める中心市街地の割合も増加傾向が続いている。

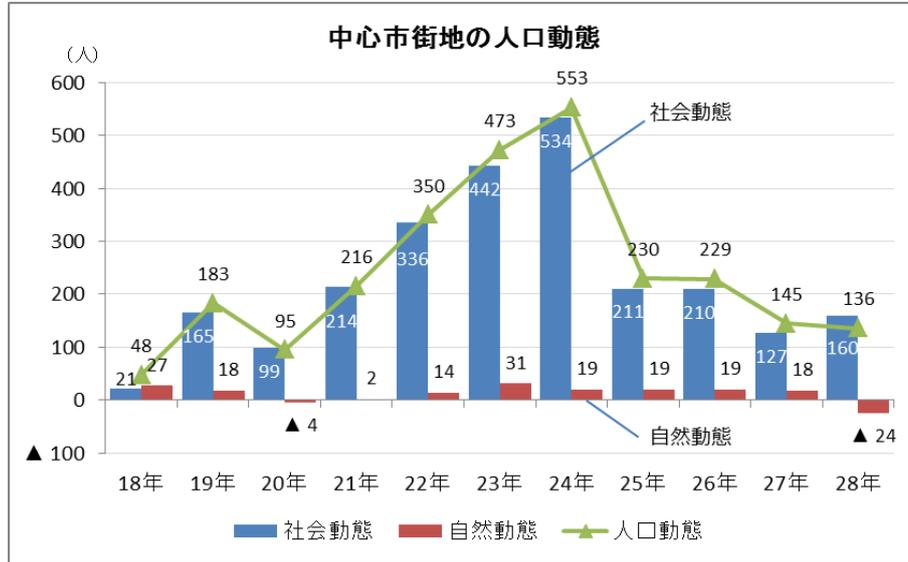


(資料：住民基本台帳)

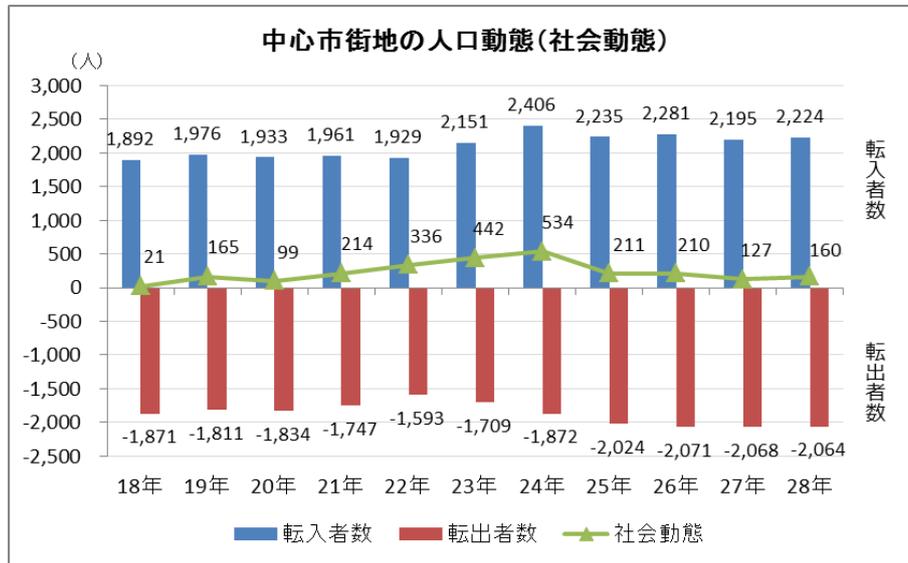
# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

## ② 中心市街地の人口動態

中心市街地の人口動態は、自然減となった20年と28年を除き、社会動態、自然動態ともに増加で推移している。社会動態と自然動態を比較すると、19年以降は社会動態が自然動態を大幅に上回っている。社会動態は、20年から24年にかけて増加幅の拡大が続いたが、25年以降は増加幅が縮小傾向にある。自然動態は社会動態と比べると大きな増減はなく、28年は8年ぶりに自然減となった。

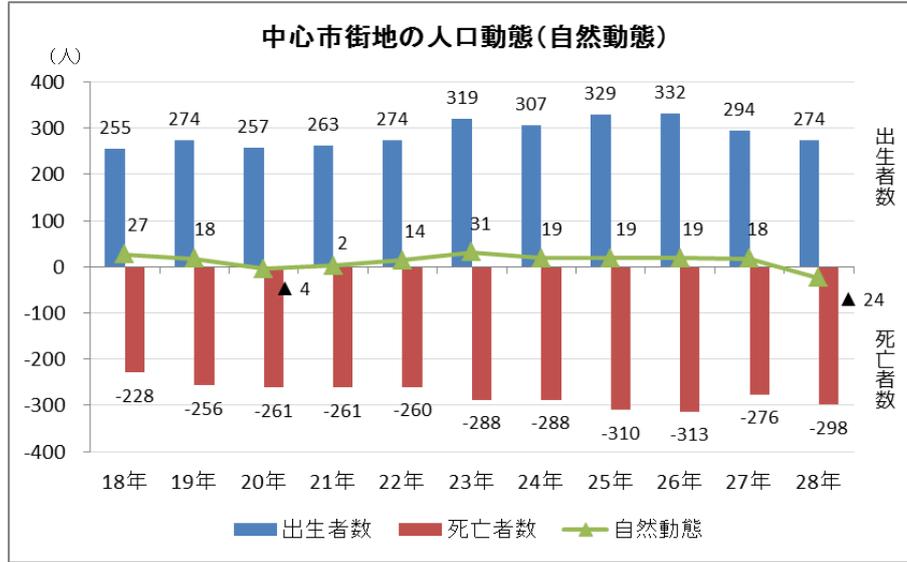


中心市街地の社会動態の内訳をみると、転入者数は、18年から22年までは1,900人前後で推移していたが、23年以降は2,200人前後で推移している。転出者数は18年から22年までは減少傾向にあったものの、その後は26年まで増加が続き、近年は2,000人台で推移している。



## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

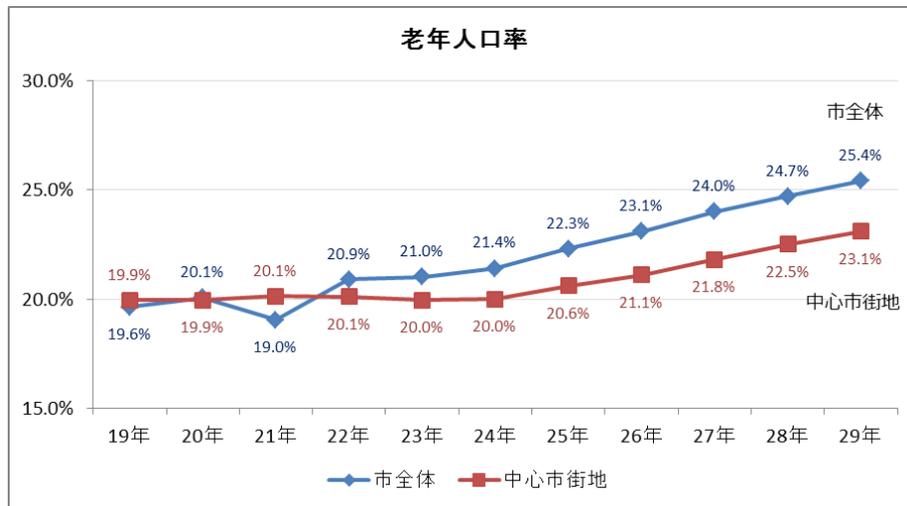
中心市街地の自然動態の内訳をみると、出生者数は、26年まで増加傾向が続き、27年以降は減少している。死亡者数も同様に26年まで増加傾向が続き、27年には一旦減少したものの、28年には再び増加した。



(資料：住民基本台帳)

### ③ 中心市街地の老年人口率

中心市街地の老年人口率は、22年以降、市全体を下回る状況が続いているが、近年増加傾向にある。

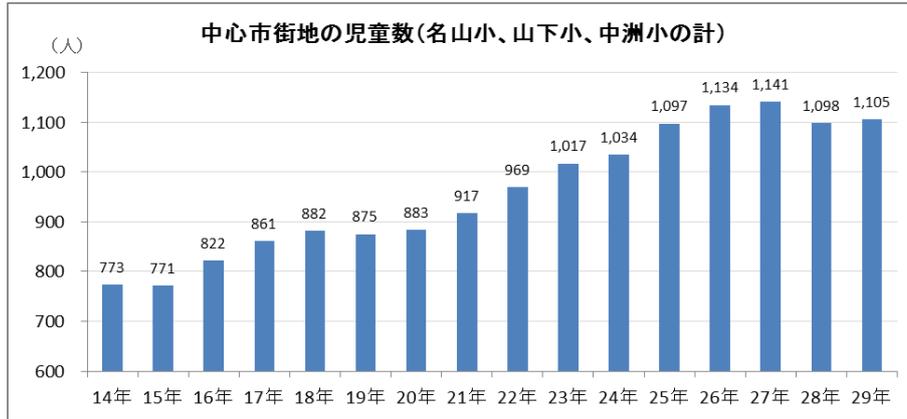


(資料：住民基本台帳)

# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

## ④ 中心市街地の児童数

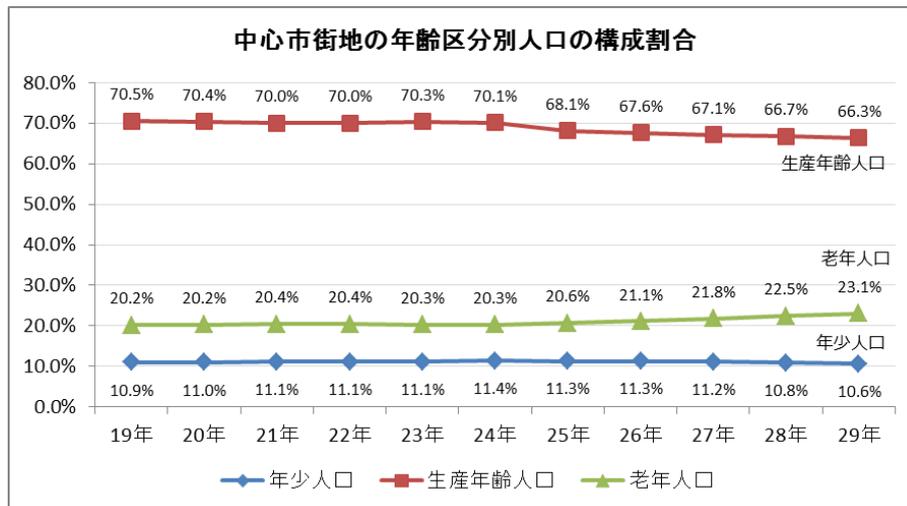
中心市街地の児童数（計画区域内の名山小、山下小、中洲小）は近年増加が続いていたが、28年に減少した。



(資料：市教育委員会)

## ⑤ 中心市街地の年齢区分別人口

中心市街地の年少人口（14歳以下）、生産年齢人口（15～64歳）、老年人口（65歳以上）の割合は、いずれも19年から24年まではほぼ横ばいであったが、生産年齢人口の割合は25年に7割を割り込んで以降減少傾向にあり、年少人口の割合も緩やかに減少している。一方、老年人口の割合は近年増加傾向にある。



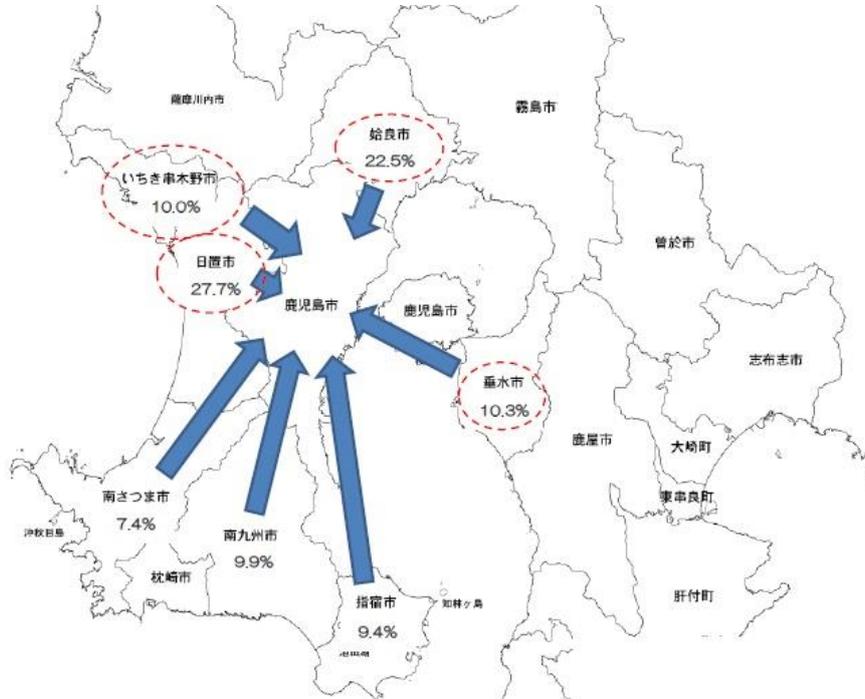
(資料：住民基本台帳)

# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

## ⑥ 通勤・通学者の状況

本市以外の市町村で、本市への通勤・通学者の割合が10%以上となっている市町村としては、日置市が27.7%で最も高く、続いて始良市、垂水市、いちき串木野市となっており、これらの地域と日常的な生活圏域が構成されていることが伺える。

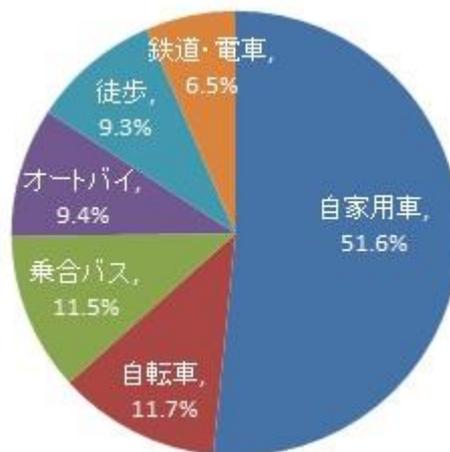
### <鹿児島市への通勤・通学者>



※すべての就業・通学者比（資料：平成22年国勢調査）

また、通勤・通学時の利用交通手段は、自家用車が51.6%と半数を超え、続いて利用割合が高い順に自転車、乗合バス、オートバイ、徒歩、鉄道・電車となっている。

### <通勤・通学時の利用交通手段>



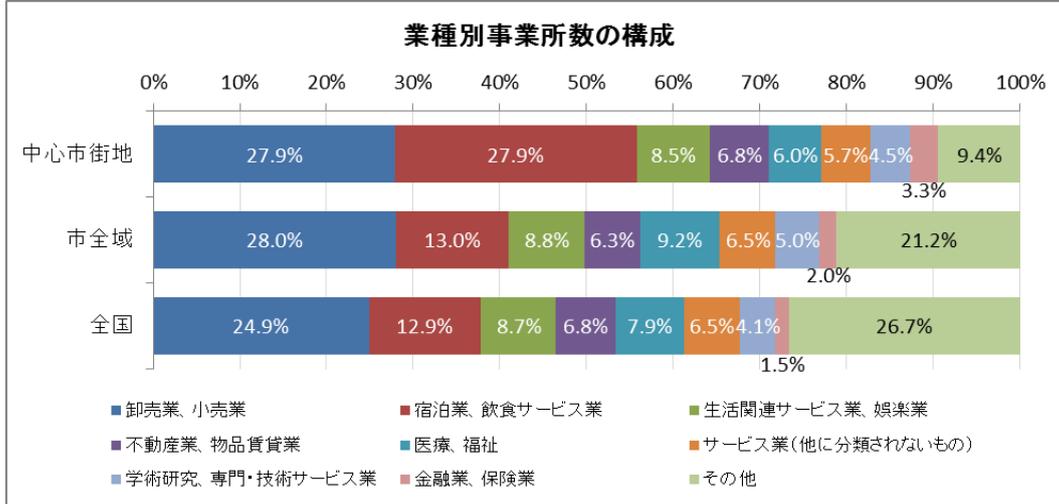
（資料：平成22年国勢調査）

# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

## (2) 経済活力に関する状況

### ① 業種別事業所数

26年の業種別事業所数の構成をみると、中心市街地は市全域や全国に比べ、「宿泊業、飲食サービス業」の割合が高く、「卸売業、小売業」と合わせると55.8%と半数を超えている。

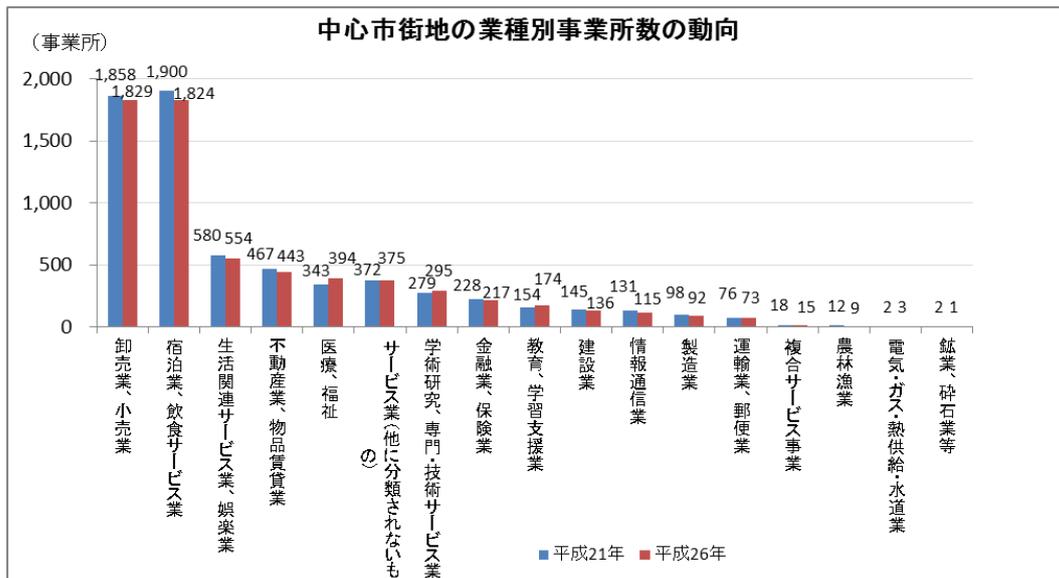


※その他の内訳は、「教育、学習支援業 (2.7%, 3.8%, 4.0%)」、「建設業 (2.1%, 8.3%, 9.1%)」、「情報通信業 (1.8%, 0.9%, 1.2%)」、「製造業 (1.4%, 4.4%, 8.6%)」、「運輸業、郵便業 (1.1%, 2.6%, 2.4%)」、「複合サービス事業 (0.2%, 0.6%, 0.6%)」、「農林漁業 (0.1%, 0.3%, 0.6%)」、「電気・ガス・熱供給・水道業 (0.0%, 0.1%, 0.2%)」、「鉱業、採石業等 (0.0%, 0.0%, 0.0%)」。(※ ( ) 内の割合は、中心市街地、市全域、全国の順。)

(資料：平成26年経済センサス)

### ② 中心市街地の業種別事業所数の動向

26年の業種別事業所数を21年と比較すると、「医療、福祉」、「教育、学習支援業」などが増加している一方で、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」などは減少している。

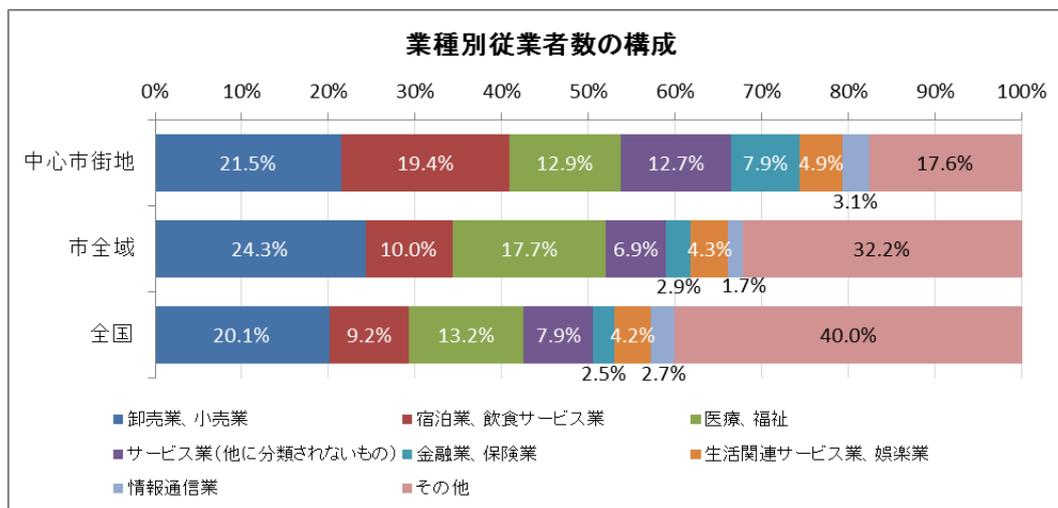


(資料：平成21年、26年経済センサス)

# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

## ③ 業種別従業者数

26年の業種別従業者数の構成をみると、中心市街地は市全域や全国に比べ、「宿泊業、飲食サービス業」、「サービス業（他に分類されないもの）」の割合が高くなっている。また、「卸売業、小売業」と「宿泊業、飲食サービス業」を合わせた割合は40.9%と4割を超えている。

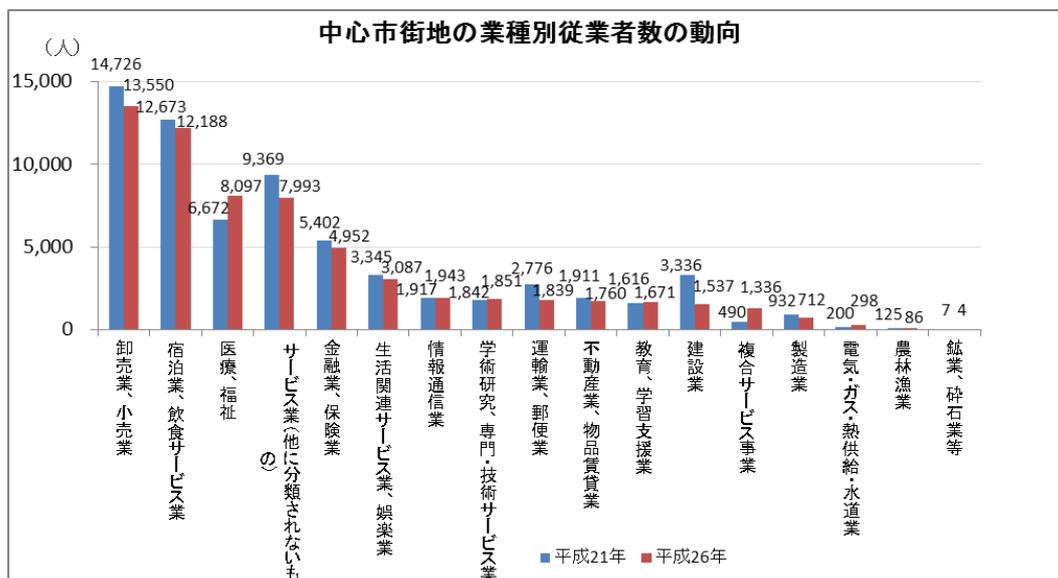


※その他の内訳は、「学術研究、専門・技術サービス業（2.9%、3.2%、3.2%）」、「運輸業、郵便業（2.9%、6.0%、5.5%）」、「不動産業、物品賃貸業（2.8%、2.3%、2.5%）」、「教育、学習支援業（2.7%、6.2%、5.2%）」、「建設業（2.4%、6.7%、6.3%）」、「複合サービス事業（2.1%、1.0%、0.9%）」、「製造業（1.1%、6.0%、15.3%）」、「電気・ガス・熱供給・水道業（0.5%、0.6%、0.5%）」、「農林漁業（0.1%、0.2%、0.6%）」、「鉱業、砕石業等（0.0%、0.0%、0.0%）」。（※（ ）内の割合は、中心市街地、市全域、全国の順。）

（資料：平成26年経済センサス）

## ④ 中心市街地の業種別従業者数の動向

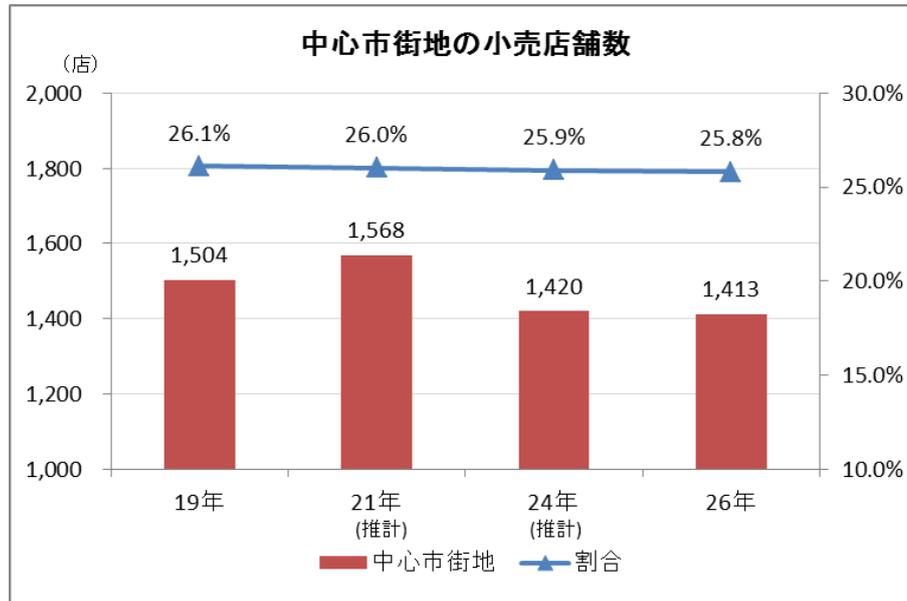
26年の業種別従業者数を21年と比較すると、「医療、福祉」、「複合サービス事業」などが増加している一方で、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」などは減少している。



## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### ⑤ 中心市街地の小売店舗数

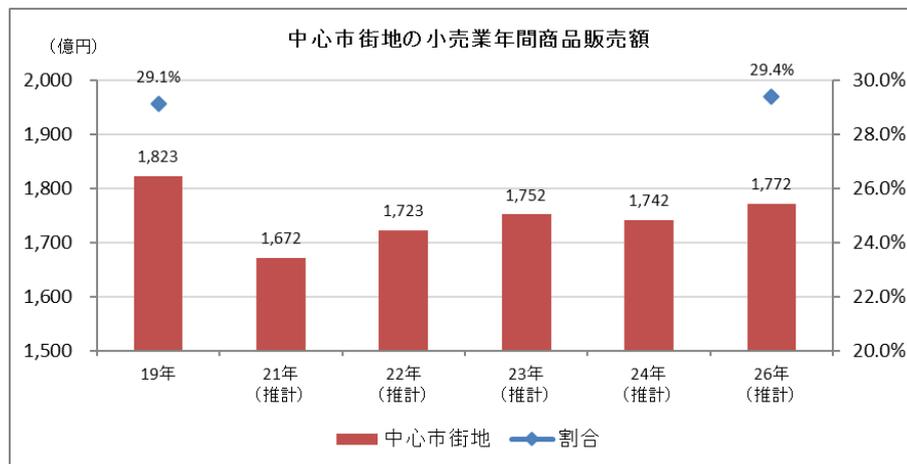
中心市街地の小売店舗数は、21年に一旦増加したものの、その後は減少している。市全体に占める、中心市街地の小売店舗数の割合は微減傾向にある。



(資料：商業統計調査、経済センサス)

### ⑥ 中心市街地の小売業年間商品販売額

中心市街地の小売業年間商品販売額は、19年から21年にかけて大幅に減少し、その後やや持ち直し、ほぼ横ばいの状態が続いている。市全体に占める中心市街地の小売業年間商品販売額の割合は3割弱である。

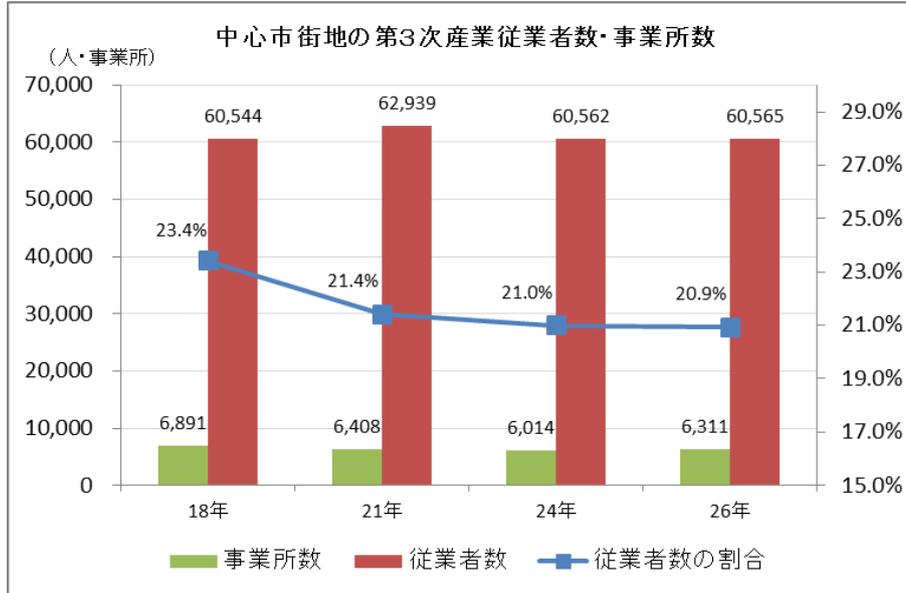


(資料：商業統計調査、経済センサス)

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### ⑦ 中心市街地の第3次産業従業者数・事業所数

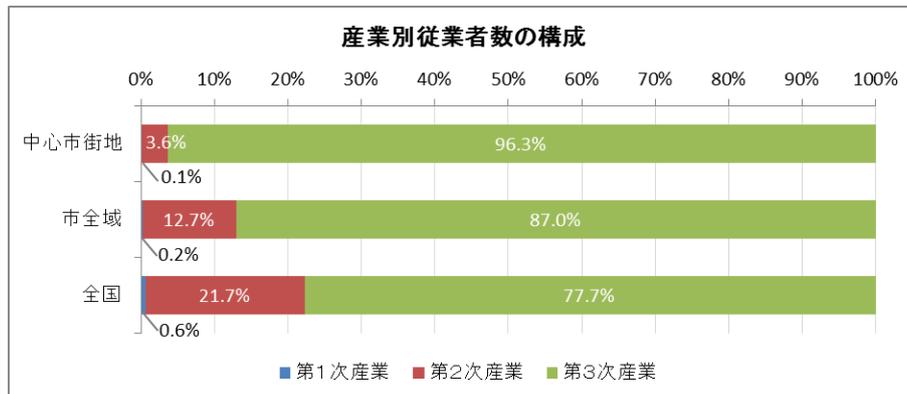
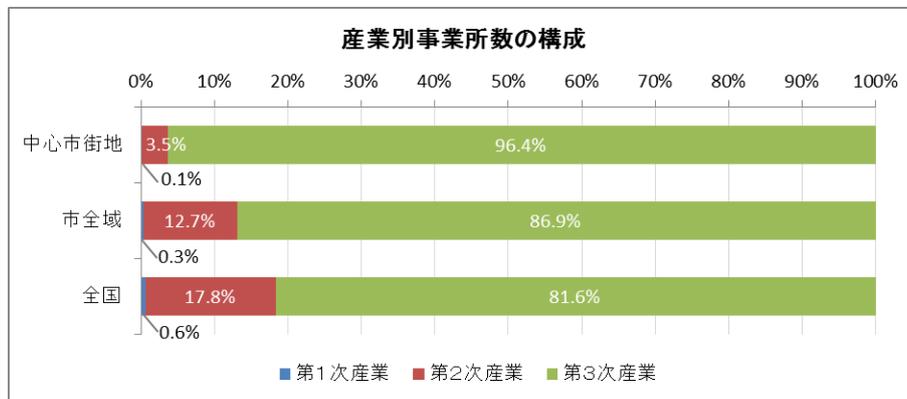
中心市街地の第3次産業の従業者数は、18年から21年にかけて増加し、24年に減少した後横ばいとなっている。市全体に対する割合は18年以降減少傾向となっている。



(資料：事業所・企業統計調査、経済センサス)

### ⑧ 産業別事業所数・従業者数

産業別事業所数・従業者数の割合をみると、中心市街地はいずれも第3次産業が96%を超えており、市全域や全国に比べても高い割合となっている。

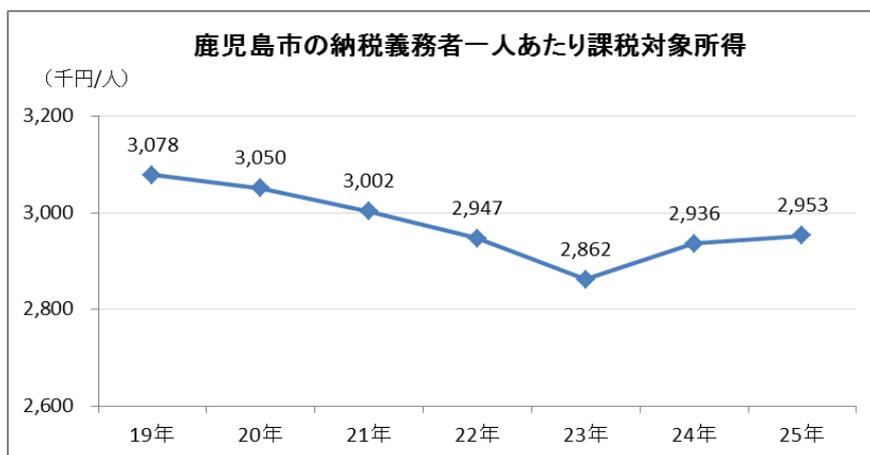


(資料：26年経済センサス)

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

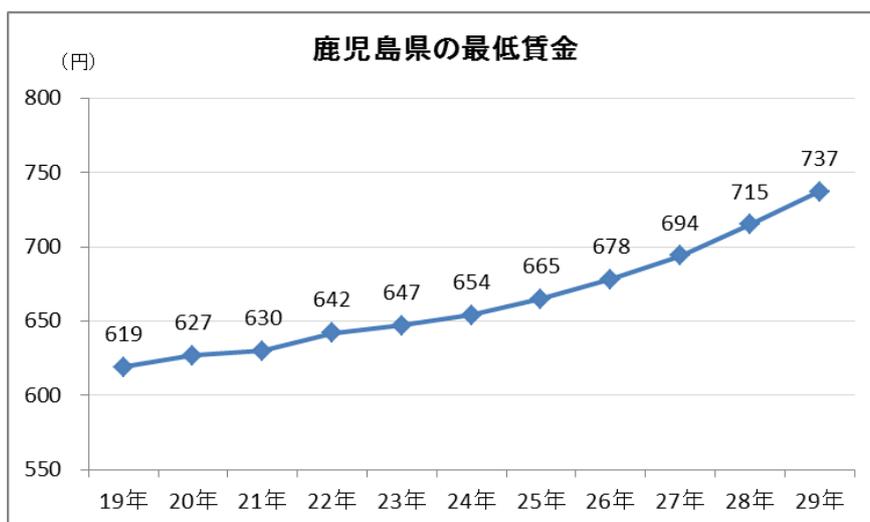
### ⑨ 課税所得及び地域別最低賃金の状況

本市の納税義務者一人あたり課税対象所得は23年に2,862千円まで減少した。直近の25年には2,953千円まで持ち直しているが、19年の3,078千円と比べると約4%減少しており、県庁所在地46都市（東京都を除く。）中32位である。



(資料：内閣府)

また、本県の最低賃金（29年10月発効）は737円と、19年の619円と比べて100円以上上昇しているものの、最低賃金額改定ランクは全国最低ランクのD区分となっている。



(資料：厚生労働省)

#### ■29年度地域別最低賃金額改定ランクの目安（29年7月）

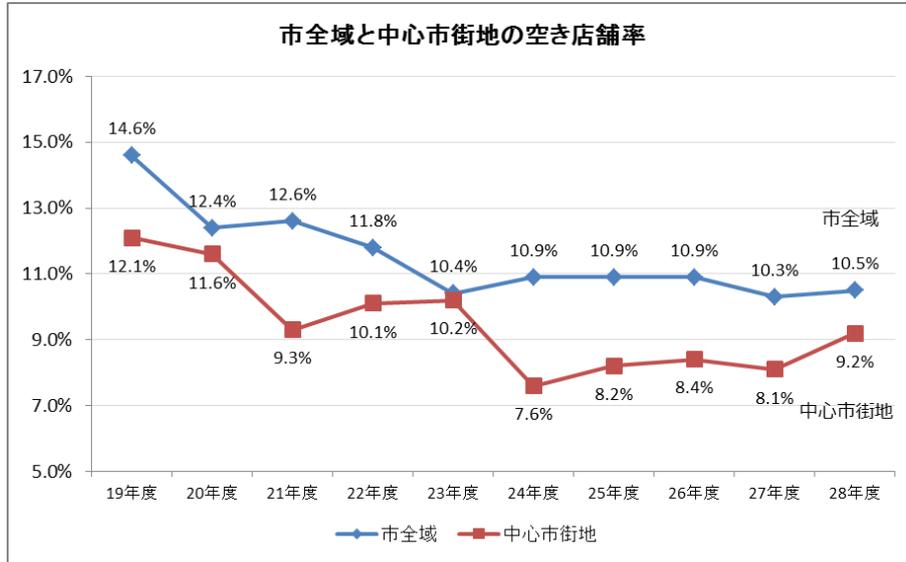
ランク	都道府県
A	埼玉、千葉、東京、神奈川、愛知、大阪
B	茨城、栃木、富山、山梨、長野、静岡、三重、滋賀、京都、兵庫、広島
C	北海道、宮城、群馬、新潟、石川、福井、岐阜、奈良、和歌山、岡山、山口、徳島、香川、福岡
D	青森、岩手、秋田、山形、福島、鳥取、島根、愛媛、高知、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、 <u>鹿児島</u> 、沖縄

(資料：厚生労働省)

# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

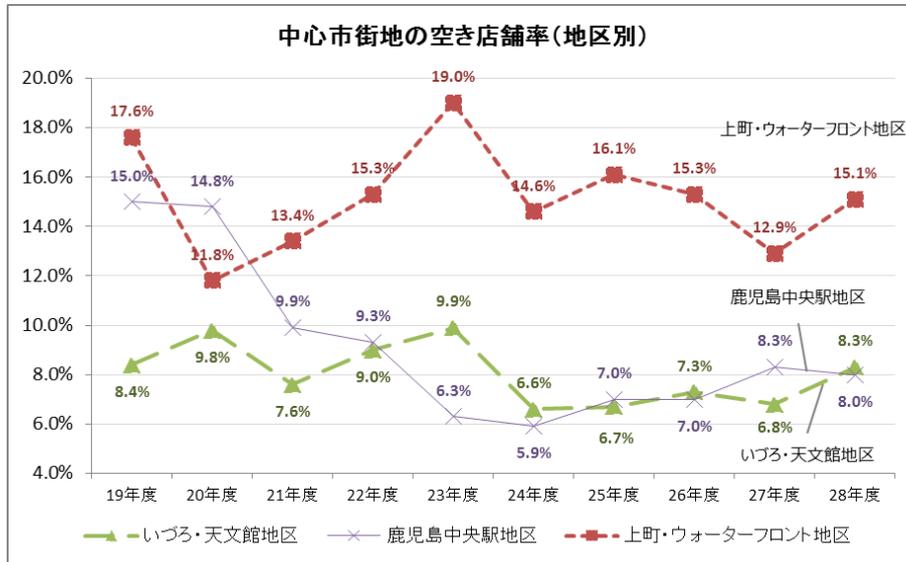
## ⑩ 中心市街地の空き店舗率

中心市街地の空き店舗率は、18年度から19年度にかけて中心市街地外に大型商業施設が相次いで進出したことなどにより、19年度には12.1%となった。その後、1期計画の取組の効果もあり、24年度には7.6%と一旦改善したものの、近年増加傾向にある。



※毎年度2月に調査を実施（資料：市産業支援課）

地区別では、上町・ウォーターフロント地区で10%を超える状態が続いており、鹿児島中央駅地区、いづろ・天文館地区は、24年度以降増加傾向にある。



※毎年度2月に調査を実施（資料：市産業支援課）

# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

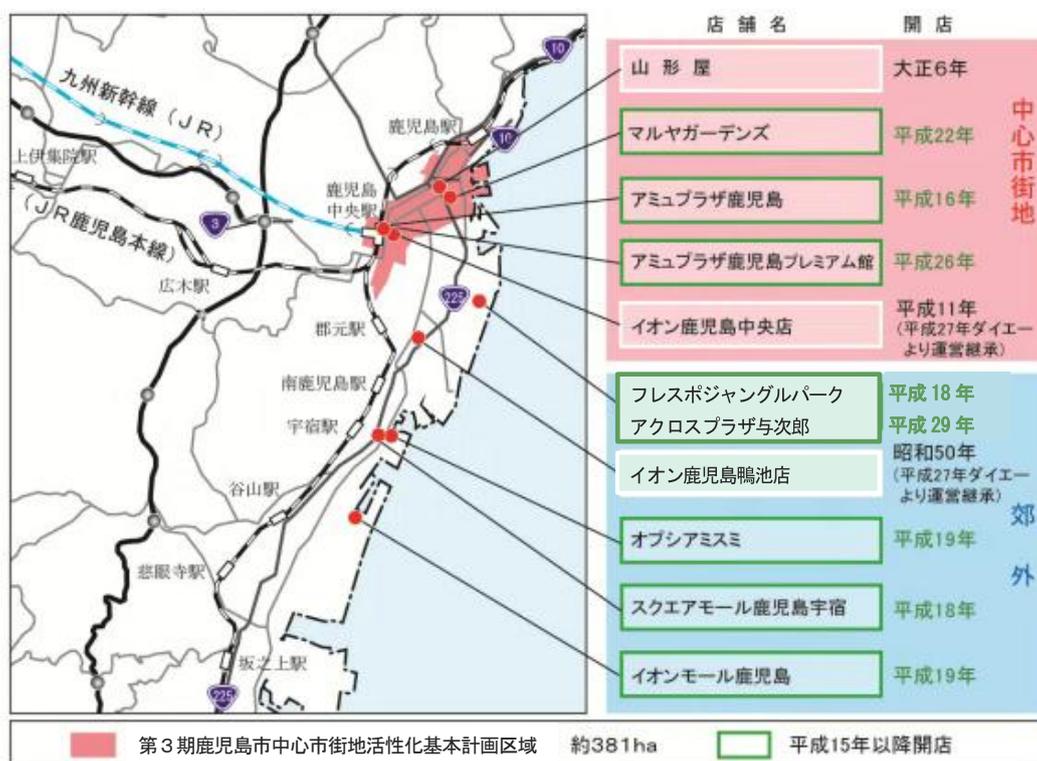
## ⑪ 大規模小売店舗の状況

本市には1万㎡を超える大規模小売店舗が12店舗あり、中心市街地には、山形屋、アミュプラザ鹿児島、西鹿児島駅東口10番街区市街地再開発ビル（イオン鹿児島中央店）、マルヤガーデンズの4店舗がある。

番号	店舗名	所在地	中心市街地	店舗面積 (㎡)	開店日
1	イオンモール鹿児島	東開町		49,239	当初H19.10 変更H25.11
2	山形屋	金生町	○	30,328	T6.6
3	アミュプラザ鹿児島	中央町	○	25,541	当初H16.9 変更H26.9
4	鹿児島ショッピングプラザ (イオン鹿児島鴨池店)	鴨池二丁目		20,420	S50.7
5	N's CITY (ニシムタ谷山店)	卸本町		19,394	当初H12.11 変更H21.3
6	オブシァミスミ	宇宿二丁目		18,300	H19.11
7	西鹿児島駅東口10番街区市街地再開発ビル (イオン鹿児島中央店)	中央町	○	17,124	H11.6
8	フレスポジャングルパーク	与次郎一丁目		13,770	H18.10
9	スクエアモール鹿児島宇宿	宇宿二丁目		12,141	H18.9
10	マルヤガーデンズ	呉服町	○	11,517	当初S11.6 変更H22.4
11	アクロスプラザ与次郎	与次郎一丁目		10,766	H29.4
12	ホームプラザナフコ谷山店	下福元町		10,399	当初H13.1 変更H19.10

(資料：市産業支援課調べ)

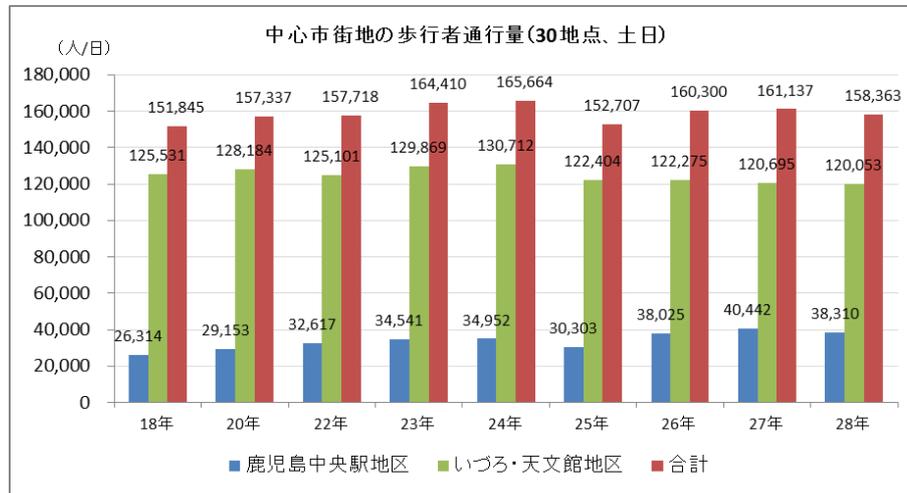
### <主な大規模小売店舗（10,000㎡以上）の立地状況>



## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### ⑫ 中心市街地の歩行者通行量

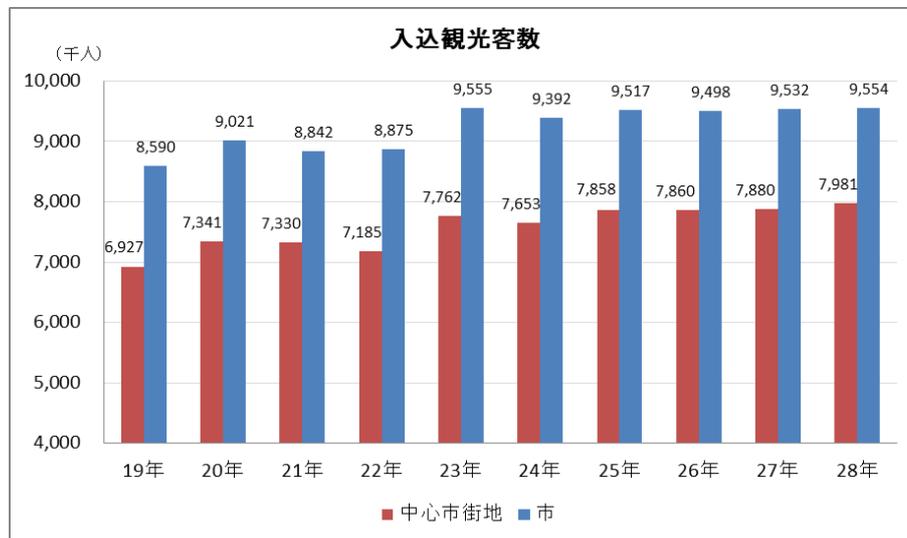
中心市街地の歩行者通行量（30 地点、土日平均）は、18 年から 24 年にかけて増加を続けてきたが、25 年に一旦減少した後はほぼ横ばいである。地区別ではいづろ・天文館地区（20 地点）が減少傾向にある一方、鹿児島中央駅地区（10 地点）は増加傾向にある。



(資料：市歩行者通行量調査)

### ⑬ 市全体と中心市街地の入込観光客数

本市の入込観光客数は、九州新幹線が全線開業した 23 年に急増し、その後は横ばい傾向にある。中心市街地の入込観光客数は 23 年に急増し、その後も増加傾向にある。

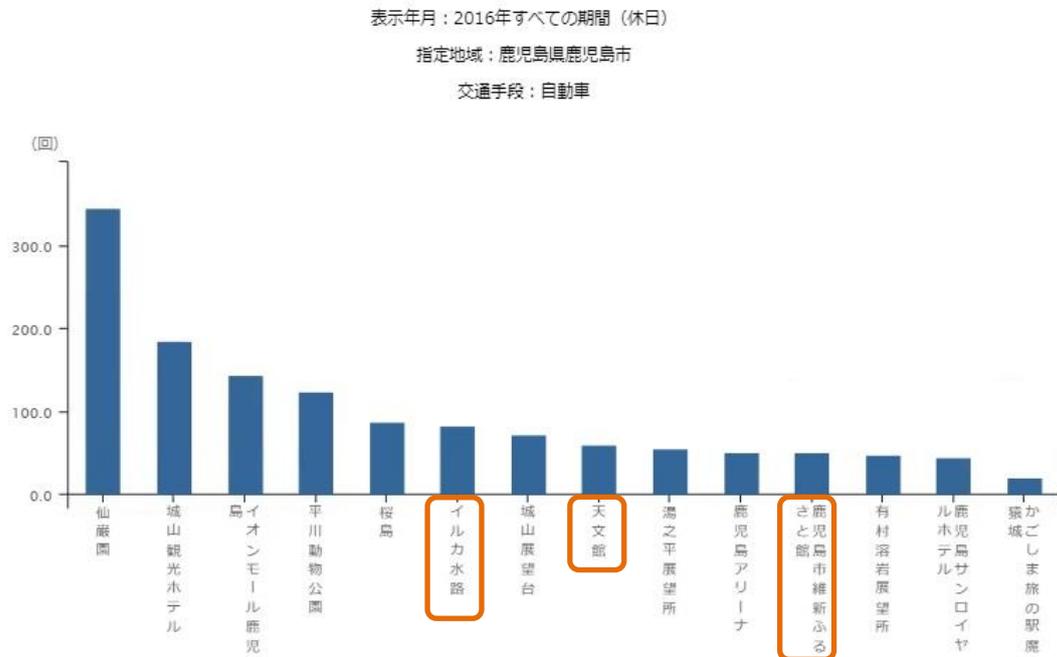


(資料：市観光統計)

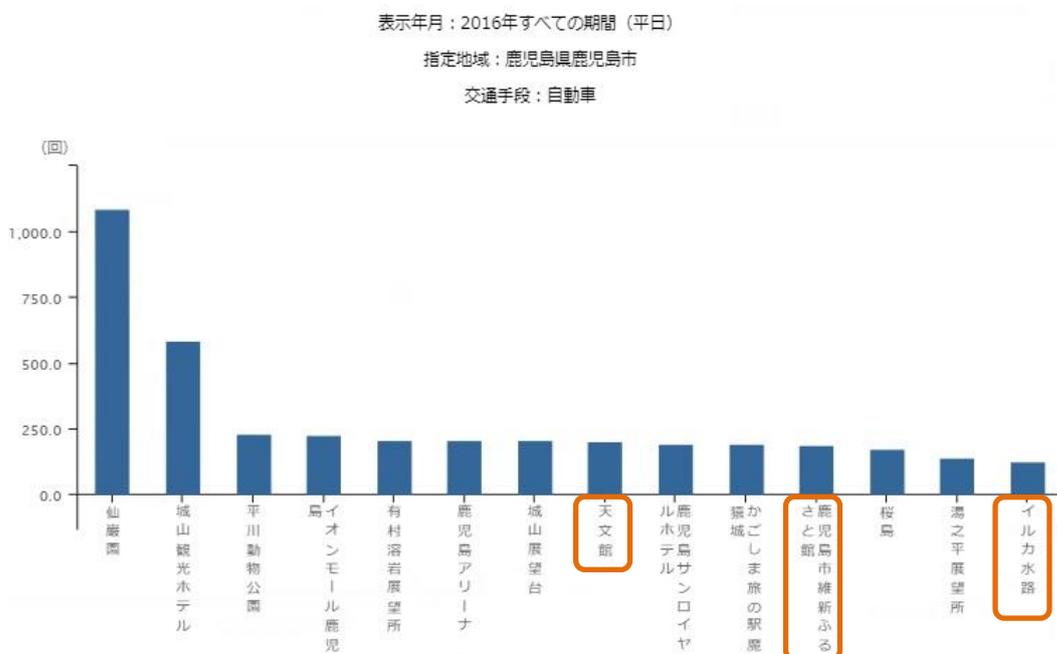
## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

なお、地域経済分析システム（RESAS）を用いて 28 年の鹿児島市内の目的地検索ランキング（自動車利用）をみると、中心市街地にあるスポット・施設では「天文館」（休日・平日ともに 8 位）、「維新ふるさと館」（休日・平日ともに 11 位）、「イルカ水路」（休日 6 位、平日 14 位）がランクインしている。

### <鹿児島市の目的地一覧（28年：休日、自動車利用）>



### <鹿児島市の目的地一覧（28年：平日、自動車利用）>



※ □ 印：中心市街地内のスポット・施設

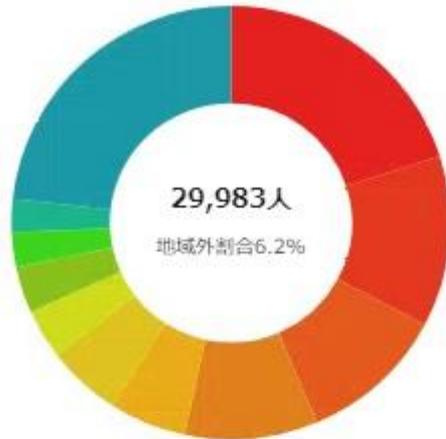
（資料：地域経済分析システム（RESAS））

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

また、28年の鹿児島市への来訪者（県内除く。）を都道府県別にみると、休日・平日ともに、九州、関東、関西の各地方からの訪問が多くなっている。休日は上位3県が福岡県、宮崎県、熊本県と九州内で占められており、平日は東京都が2位となっている。

＜鹿児島市に訪問した人の都道府県別内訳（28年8月）＞

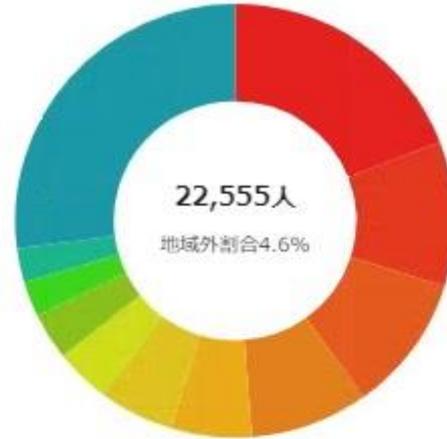
（休日）



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 福岡県 6,003人 (20.0%)
- 2位 宮崎県 3,826人 (12.7%)
- 3位 熊本県 3,234人 (10.7%)
- 4位 東京都 2,945人 (9.8%)
- 5位 大阪府 1,699人 (5.6%)
- 6位 神奈川県 1,646人 (5.4%)
- 7位 愛知県 1,112人 (3.7%)
- 8位 兵庫県 1,026人 (3.4%)
- 9位 長崎県 789人 (2.6%)
- 10位 千葉県 728人 (2.4%)
- その他 6,975人 (23.2%)

（平日）



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

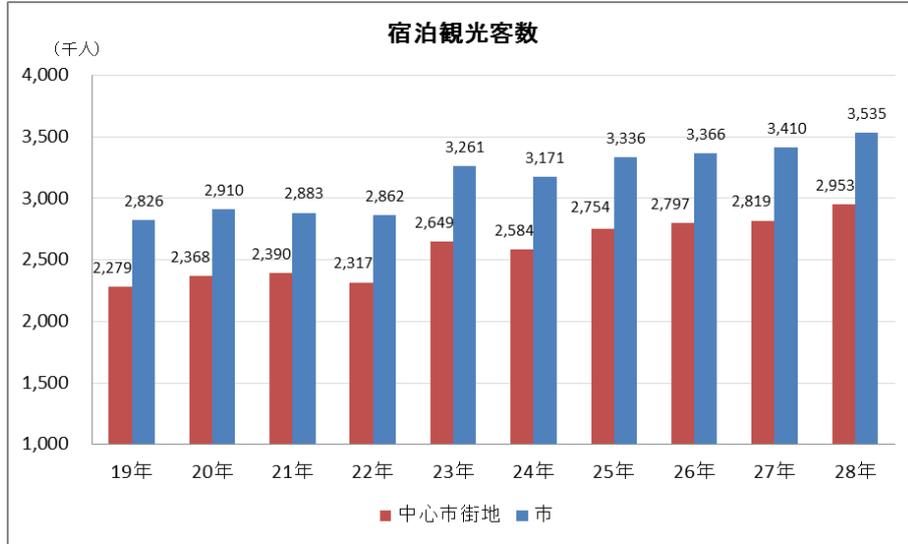
- 1位 福岡県 4,306人 (19.0%)
- 2位 東京都 2,436人 (10.8%)
- 3位 宮崎県 2,295人 (10.1%)
- 4位 熊本県 1,967人 (8.7%)
- 5位 神奈川県 1,334人 (5.9%)
- 6位 大阪府 1,257人 (5.5%)
- 7位 愛知県 911人 (4.0%)
- 8位 兵庫県 782人 (3.4%)
- 9位 千葉県 595人 (2.6%)
- 10位 長崎県 572人 (2.5%)
- その他 6,100人 (27.0%)

（資料：地域経済分析システム（RESAS））

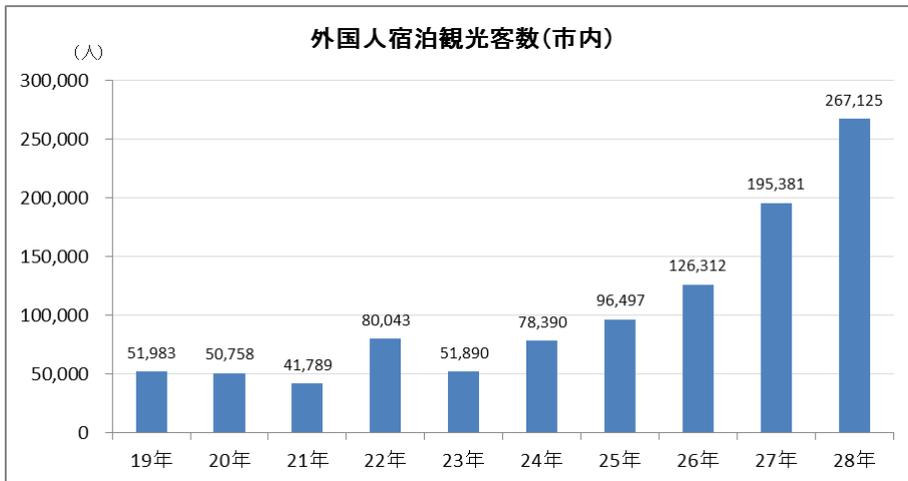
## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### ⑭ 市全体と中心市街地の宿泊観光客数

宿泊観光客数は、市全体、中心市街地ともに九州新幹線が全線開業した 23 年に急増し、その後も増加傾向にある。



中でも、市全体の外国人宿泊観光客数は、近年急激に増加している。本市宿泊施設の収容人員の約 8 割が中心市街地に集中していることを考慮すると、中心市街地でも外国人宿泊観光客数が急増していると考えられる。



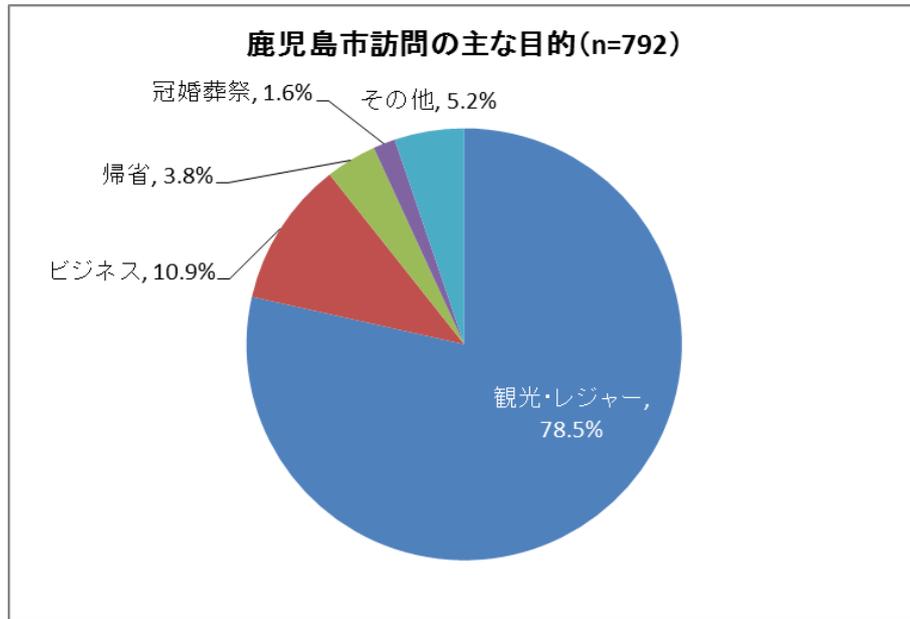
#### ■ 宿泊施設の集積状況

	中心市街地 (A)	鹿児島市 (B)	対市割合 (A/B)
宿泊施設	78 軒	116 軒	67.2%
一日あたりの収容人員	10,397 人	13,091 人	79.4%

(資料：平成 28 年市観光統計)

⑮ 鹿児島市訪問の主な目的

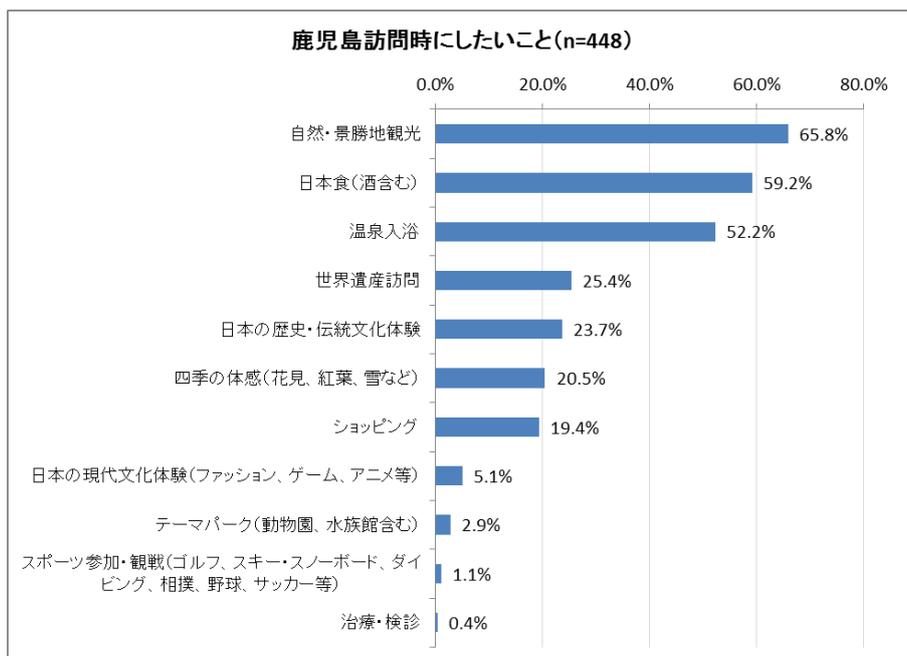
国内の来鹿経験者を対象にしたアンケート調査では、本市訪問の主な目的は「観光・レジャー」が78.5%で最も多く、次いで「ビジネス」が10.9%などとなっている。



(資料：第3期観光未来戦略策定基礎調査)

⑯ 海外（東アジア5都市）居住者の鹿児島訪問時にしたいこと

東アジア5都市（上海・ソウル・釜山・台北・香港）の居住者の内、直近1年以内（※）の訪日経験者に対し、「鹿児島訪問時にしたいこと」を尋ねたところ、「自然・景勝地観光」が65.8%で最も多く、次いで「日本食」が59.2%、「温泉入浴」が52.2%などとなっている。（※27年12月調査）

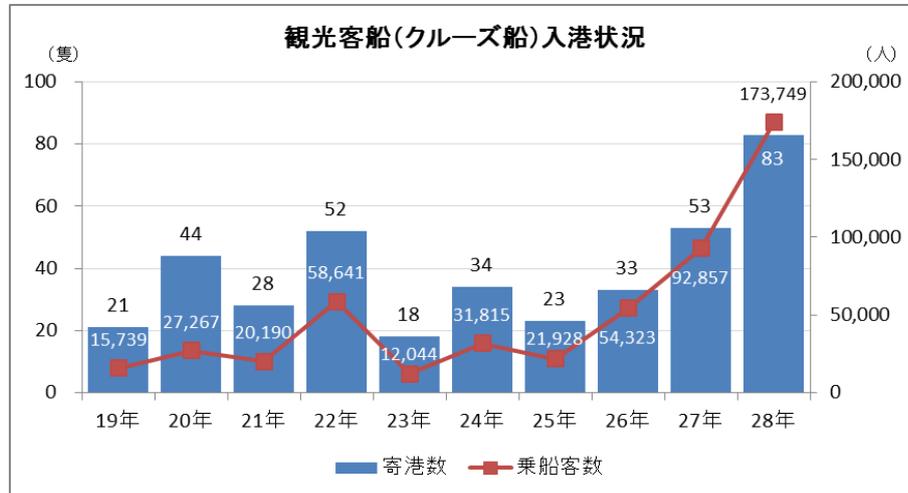


(資料：第3期観光未来戦略策定基礎調査)

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### ⑰ 観光客船（クルーズ船）入港状況

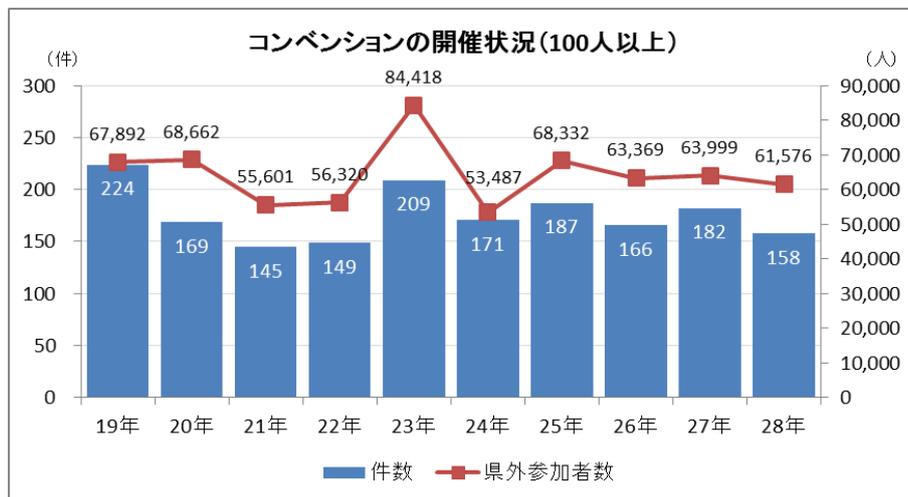
クルーズ船の本市寄港数は近年増加傾向にあり、28年は83隻と、19年の21隻と比べて約4倍となっている。また、乗船客数についてもここ数年で急増しており、28年は173,749人と、19年の15,739人と比べて約11倍、前年の27年と比べても2倍弱となっている。



(資料：平成28年市観光統計)

### ⑱ コンベンション開催件数

100人以上が参加するコンベンション（各種大会・会議等）の本市における開催件数及び県外参加者数は、九州新幹線が全線開業した23年には一旦増加したものの、近年伸び悩んでいる。

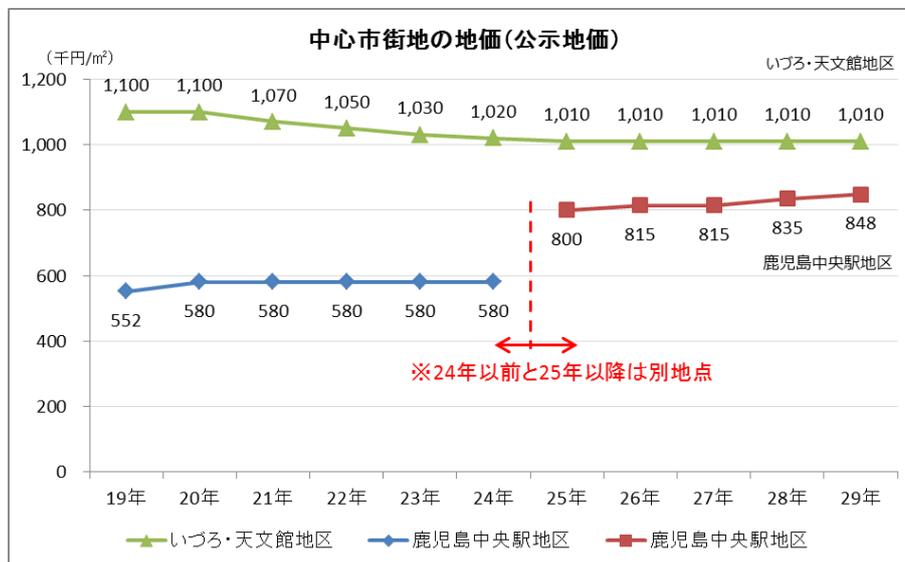


(資料：平成28年市観光統計)

(3) 土地・建物に関する状況

① 中心市街地の地価

中心市街地の公示地価は、いづろ・天文館地区（東千石町）では20年から24年まで下落が続いていたが、25年以降は横ばいである。鹿児島中央駅地区（中央町）では25年以降上昇傾向にある。



(資料：国土交通省地価公示)

② 中心市街地の時間貸駐車場

中心市街地では時間貸駐車場などの低未利用状態の土地が目立ち始めており、18年と23年を比較すると、鹿児島中央駅周辺及びいづろ・天文館地区における駐車台数は13,947台から14,662台へと5.1%増加している。

■時間貸駐車場の整備台数

	平成18年	平成23年	増減率
駐車台数	13,947台	14,662台	5.1%

(資料：市街路整備課調査)

③ 不特定多数が利用する大規模建築物の状況

中心市街地には、不特定多数が利用する大規模建築物（階数3以上かつ5,000㎡以上など）が6棟あり、いずれも耐震改修工事中あるいは工事・移転・建替予定である。

■耐震化状況（29年7月時点）

建物名称	状況
山形屋	耐震改修工事中
ホテルタイセイアネックス	耐震改修工事予定
マルヤガーデンズ	
相良病院	移転・建替予定
タカプラ	
ジェイドガーデンパレス	

(資料：市建築指導課)

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### ④ 中心市街地及び中心市街地に隣接する主な都市福利施設の状況

中心市街地には、教育文化施設、医療施設、国・県・市の庁舎等の各種都市福利施設が集積している。26年度には県警本部跡地に鹿児島市役所西別館が完成したほか、27年度にはJT跡地において、加治屋町（中心市街地内）から移転した鹿児島市立病院と、高麗町（中心市街地外）から移転した交通局局舎・電車施設がそれぞれ供用開始した。

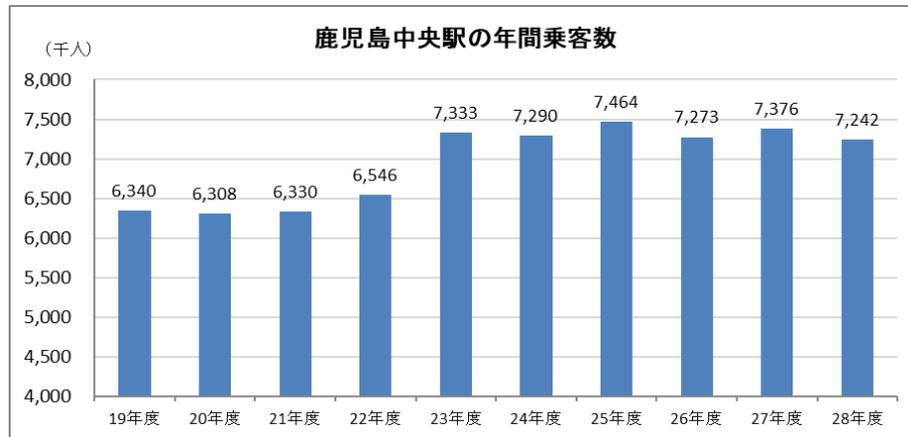
施設名	所在地	備考
鹿児島市役所	山下町	平成26年度：西別館完成
かごしま市民福祉プラザ	山下町	
鹿児島市保健所・東部保健センター	山下町	
鹿児島市親子つどいの広場なかまっち	中町	
ソーホーかごしま	山下町	
ソフトプラザかごしま	名山町	
鹿児島市勤労者交流センター	中央町	
鹿児島中央駅総合観光案内所	中央町	
観光交流センター	上之園町	
維新ふるさと館	加治屋町	
かごしま水族館	本港新町	
鹿児島市消防局、消防団	山下町	
鹿児島市教育総合センター	山下町	
鹿児島市中央公民館	山下町	
鹿児島市立美術館	城山町	
かごしま近代文学館・メルヘン館	城山町	
鹿児島市立病院	上荒田町	平成27年度：加治屋町（中心市街地内）から移転
鹿児島市交通局	上荒田町	平成27年度：高麗町（中心市街地外）から移転
鹿児島地域振興局	小川町	
かごしま県民交流センター	山下町	
宝山ホール（県文化センター）	山下町	
鹿児島県立図書館	城山町	
鹿児島県歴史資料センター黎明館	城山町	
鹿児島県立博物館	城山町	
鹿児島ブランドショップ	名山町	
鹿児島合同庁舎	山下町	
鹿児島国道事務所	浜町	
鹿児島地方裁判所	山下町	
鹿児島地方検察庁	山下町	
鹿児島海上保安部	泉町	
日本銀行鹿児島支店	上之園町	
鹿児島中央郵便局	中央町	
鹿児島東郵便局	山下町	
鹿児島商工会議所	東千石町	
NHK鹿児島放送局	本港新町	
生涯学習プラザ	荒田一丁目	（※中心市街地に隣接）
男女共同参画センター		
鹿児島県消費生活センター	新屋敷町	（※中心市街地に隣接）
鹿児島医療センター	城山町	（※中心市街地に隣接）



(4) 交通に関する状況

① 鹿児島中央駅の乗客数

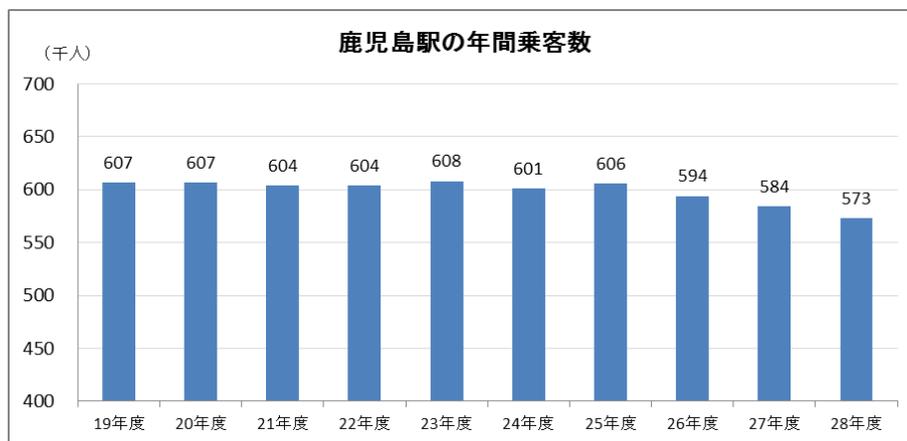
23年3月の九州新幹線全線開業を機に鹿児島中央駅の乗客数は大幅に増加した。24年度以降は横ばいで推移している。



(資料：JR九州鹿児島支社)

② 鹿児島駅の乗客数

鹿児島駅の乗客数は、25年度までは60万人強で推移していたが、その後は減少傾向にある。



(資料：JR九州鹿児島支社)

# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

＜鹿児島市における鉄道の運行概要＞

	J R九州新幹線	J R鹿児島本線	J R日豊本線	J R指宿枕崎線
				
起点/終点	博多～ 鹿児島中央	門司港～八代 川内～鹿児島	小倉～鹿児島	鹿児島中央～枕崎
準拠法	鉄道事業法	鉄道事業法	鉄道事業法	鉄道事業法
軌道構造	専用軌道	専用軌道	専用軌道	専用軌道
複線・単線	複線	複線（市内）	単線	単線
軌間	1,435mm	1,067mm	1,067mm	1,067mm
電気方式	交流 25,000V・60Hz	交流 20,000V・60Hz	交流 20,000V・60Hz	非電化
運行本数	上り 42 本/日 下り 39 本/日	上り 43 本/日 下り 43 本/日	上り 45 本/日 下り 45 本/日 （うち特急 13 往復）	上り 49 本/日 下り 51 本/日 （うち特急 3 往復、 快速 3.5 往復）
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H23年3月に、博多～鹿児島中央間全線開業</li> <li>・23往復/日、新大阪駅まで直通運転</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8本/日、鹿児島駅まで乗り入れ</li> <li>・貨物列車の運行あり</li> <li>・八代～川内は、肥薩おれんじ鉄道</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7本/日、鹿児島本線へ（伊集院駅、川内駅まで）乗り入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3往復/日、鹿児島駅まで乗り入れ</li> </ul>

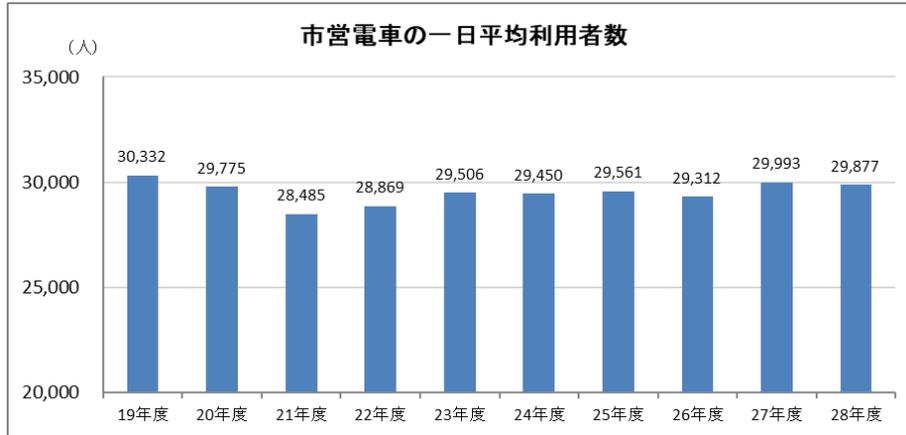
※運行本数は、平日の運行本数（新幹線は、臨時便を含む）

（資料：JR九州時刻表（平成29年3月4日時点））

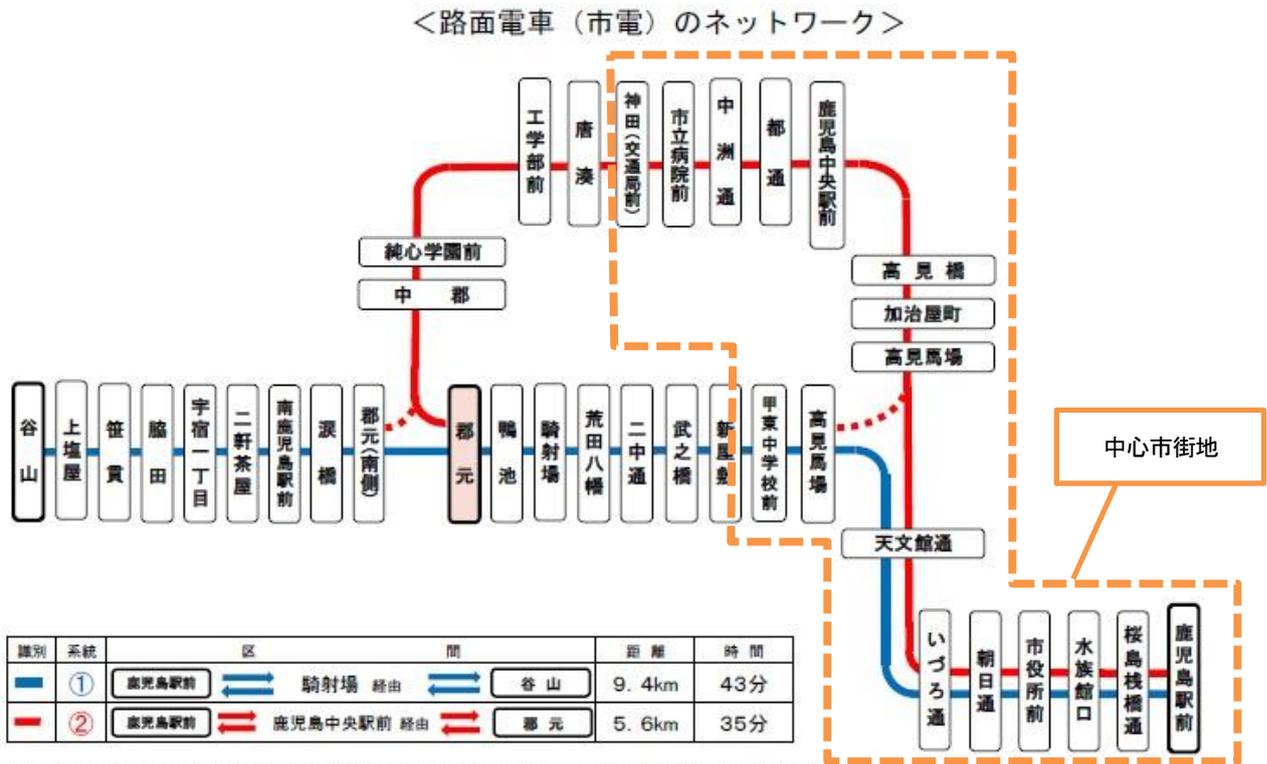
# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

## ③ 市営電車の一日平均利用者数

市営電車の1日平均利用者数は、19年度から21年度にかけて減少したが、22年度以降持ち直している。



(資料：市交通局)



(資料：市交通局)

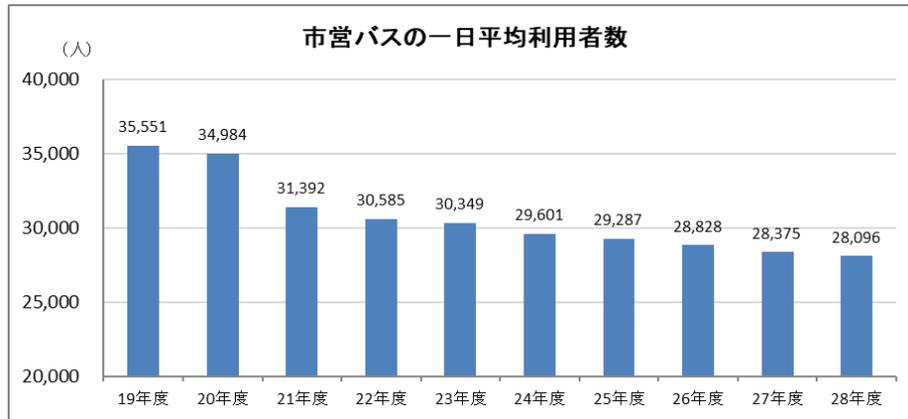
## <路面電車(市電)の運行状況>

	1系統	2系統	中央駅方面直通便
起点/終点	鹿児島駅前～谷山 (騎射場経由)	鹿児島駅前～郡元 (鹿児島中央駅前経由)	鹿児島駅前～谷山 (鹿児島中央駅前経由)
上り運行本数 (平日)	144本/日	134本/日	8本/日
下り運行本数 (平日)	141本/日	137本/日	7本/日 (うち脇田止まり3本)

(資料：市交通局(平成29年4月時点))

④ 市営バスの一日常利用者数

市営バスの利用者は、少子高齢化の進行やモータリゼーションの進展により、減少傾向が続いている。



(資料：市交通局)

(路線バスの運行本数(平日))



(資料：鹿児島市公共交通ビジョン(平成28年7月末現在))

(中心市街地における路線バスの運行本数)

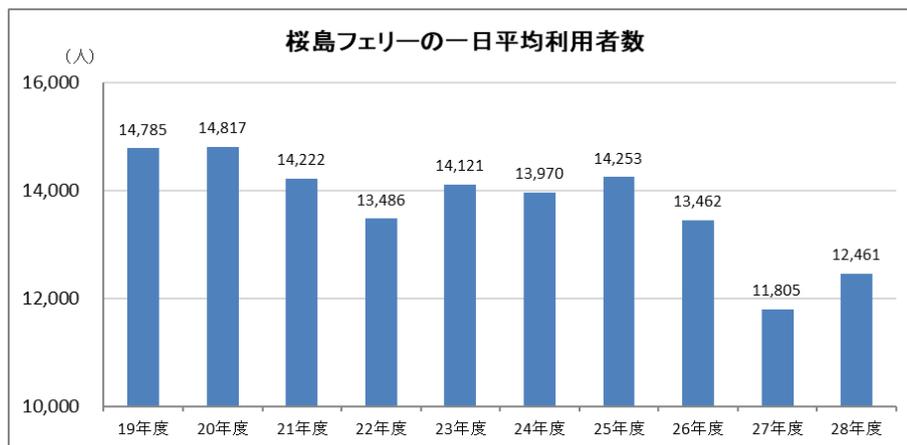


※往復運行本数の概数を記載 (資料：鹿児島市公共交通ビジョン (平成28年7月末現在))

⑤ 市営桜島フェリーの一日平均利用者数

桜島フェリーは、桜島住民の中心市街地への唯一の公共交通であるとともに、観光客の桜島へのアクセス手段であり、さらには、大隅半島と薩摩半島を繋ぐ、人・物流の重要な交通・輸送手段であることから、その役割は中心市街地の発展にも大きな影響を与えている。

桜島フェリーの利用者は、21年度から22年度にかけて、宮崎県に広がった口蹄疫被害、頻繁に起こる桜島南岳噴火、ガソリン高騰などの影響を受けて減少した。23年度以降は、九州新幹線全線開業の効果もあり、持ち直しつつあったものの、27年は東九州自動車道の延伸や桜島の噴火警戒レベル引き上げの影響を受け、大幅に減少した。

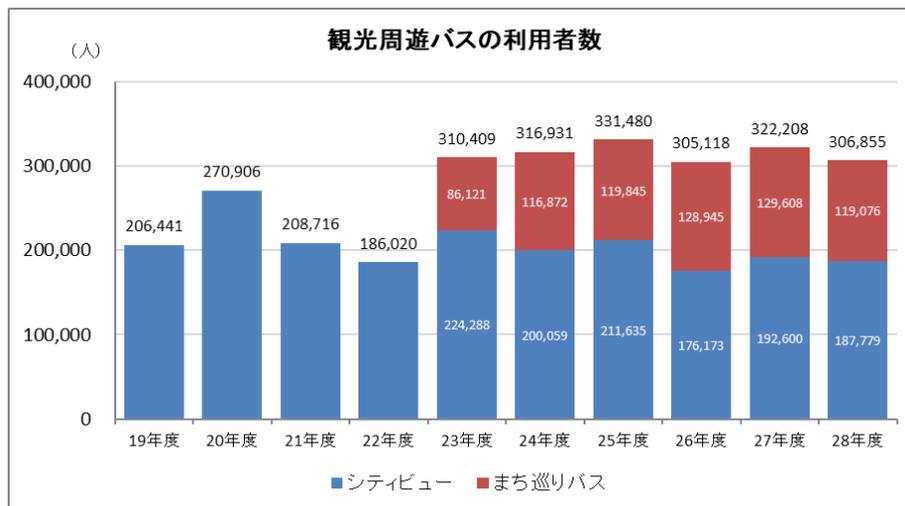


(資料：市船舶局)

⑥ 観光地周遊バスの利用者数

市内の主要観光スポットを巡る周遊バスとして、6年3月に運行を開始したカゴシマシティビューの利用者は、16年の九州新幹線部分開業後は堅調に増加し、20年度には大河ドラマ「篤姫」放映の効果もあり、過去最高の27万人を記録した。21年以降は、毎年20万人前後が利用している。

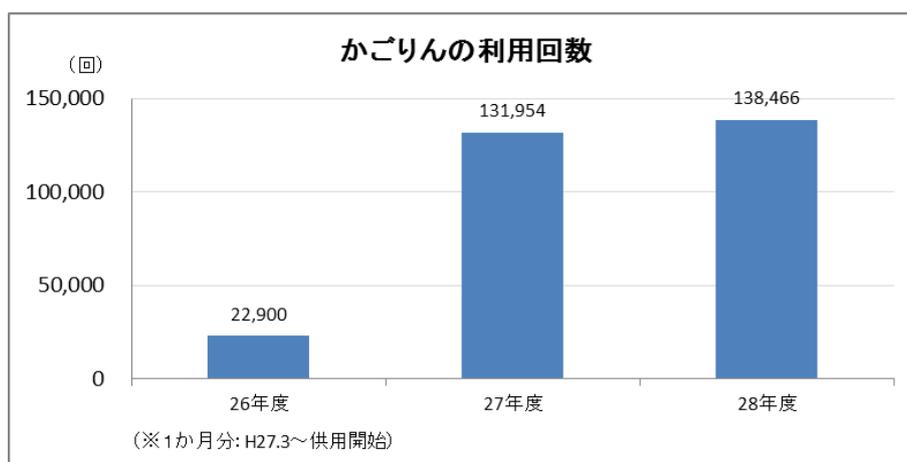
また、23年から運行が開始されたまち巡りバスは、利用者が12万人前後で推移し、カゴシマシティビューと合わせると、30万人超が観光周遊バスを利用している。



(資料：鹿児島交通㈱、市観光統計)

⑦ コミュニティサイクル「かごりん」の利用回数

中心市街地20か所と中心市街地周辺4か所の計24か所にサイクルポートを配置し、どのサイクルポートでも貸出・返却ができるコミュニティサイクル「かごりん」は、環境にやさしい移動手段として27年3月の供用開始以降、年間13万回以上利用されるなど、中心市街地の回遊性向上に寄与している。



(資料：市環境政策課)

**【3】 地域住民のニーズ等の把握・分析**

(1) 平成28年度鹿児島市中心市街地来街者の回遊性・満足度調査

**【調査概要】**

- 調査日：平成28年11月16日（木）、23日（祝）の2日間
- 調査時間：10時30分～18時30分の8時間
- 調査地点：いづろ・天文館地区（5地点）、鹿児島中央駅地区（5地点）、上町・ウォータ―フロント地区（4地点）の計14地点
- 調査方法：街頭での聞き取り調査
- 対象者：高校生以上の来街者（観光客を含む。）
- サンプル数：623件

**【調査結果】**

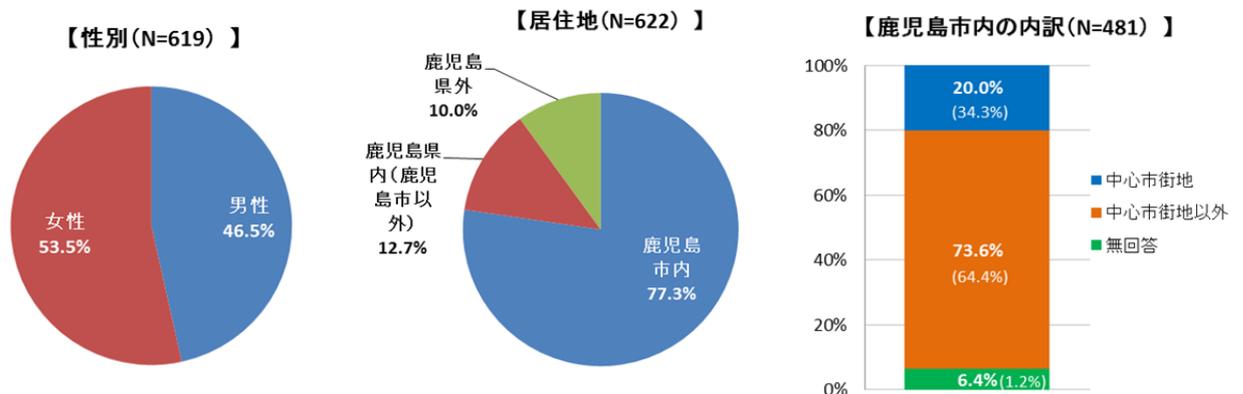
(1) 性別

男性 46.5%、女性 53.5%

(2) 居住地

市内 77.3%、県内 12.7%、県外 10.0%

（市内のうち、中心市街地が20.0%、中心市街地以外が73.6%、無回答が6.4%）

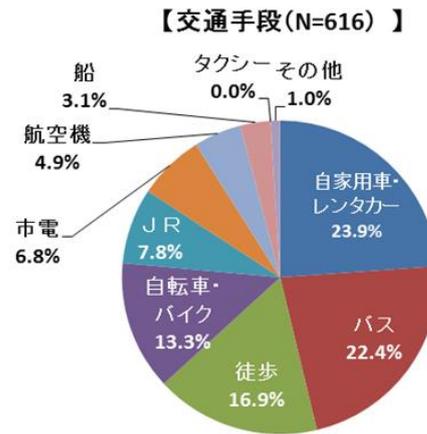


※（ ）内は前回調査（27年調査）における割合。

# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

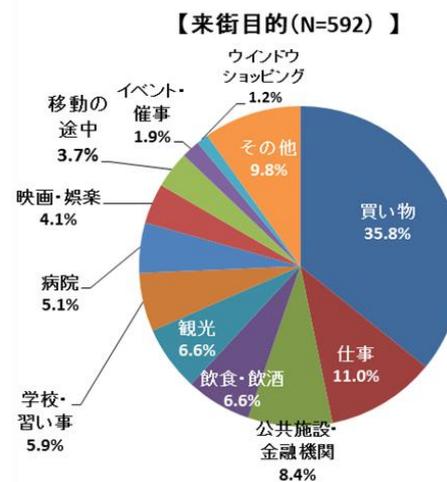
## (3) 主な来街手段

① 自家用車・レンタカー	23.9%
② バス	22.4%
③ 徒歩	16.9%
④ 自転車・バイク	13.3%
⑤ JR	7.8%
⑥ 市電	6.8%
⑦ 航空機	4.9%
⑧ 船	3.1%



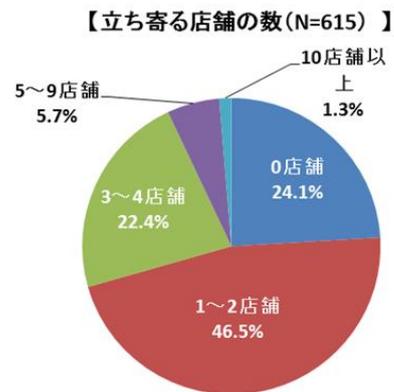
## (4) 主な来街目的 (上位5項目)

① 買い物	35.8%
② 仕事	11.0%
③ 公共施設・金融機関	8.4%
④ 飲食・飲酒	6.6%
⑤ 観光	6.6%



## (5) 立ち寄る店舗数

0店舗	24.1%
1～2店舗	46.5%
3～4店舗	22.4%
5～9店舗	5.7%
10店舗以上	1.3%

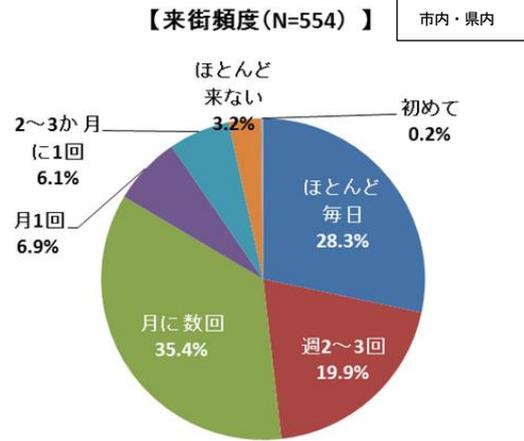


# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

## (6) 来街頻度

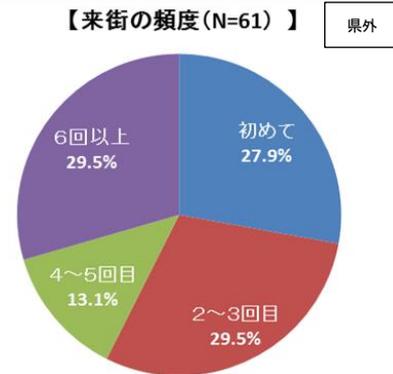
### 市内・県内

ほとんど毎日	28.3%
週2～3回	19.9%
月に数回	35.4%
月1回	6.9%
2～3か月に1回	6.1%
ほとんど来ない	3.2%



### 県外

初めて	27.9%
2～3回目	29.5%
4～5回目	13.1%
6回以上	29.5%



## (7) ここ1～2年の来街機会の増減（「増えた」、「やや増えた」と答えた人の割合（A）から「減った」、「やや減った」と答えた人の割合（B）を差し引いたもの）

### 市内・県内

① 鹿児島中央駅地区	+32.3 ポイント (A : 39.8%—B : 7.5%)
② 郊外の大型店等	+14.1 ポイント (A : 24.9%—B : 10.8%)
③ いづろ・天文館地区	+13.9 ポイント (A : 31.1%—B : 17.2%)
④ 上町・ウォーターフロント地区	+ 5.9 ポイント (A : 13.1%—B : 7.2%)

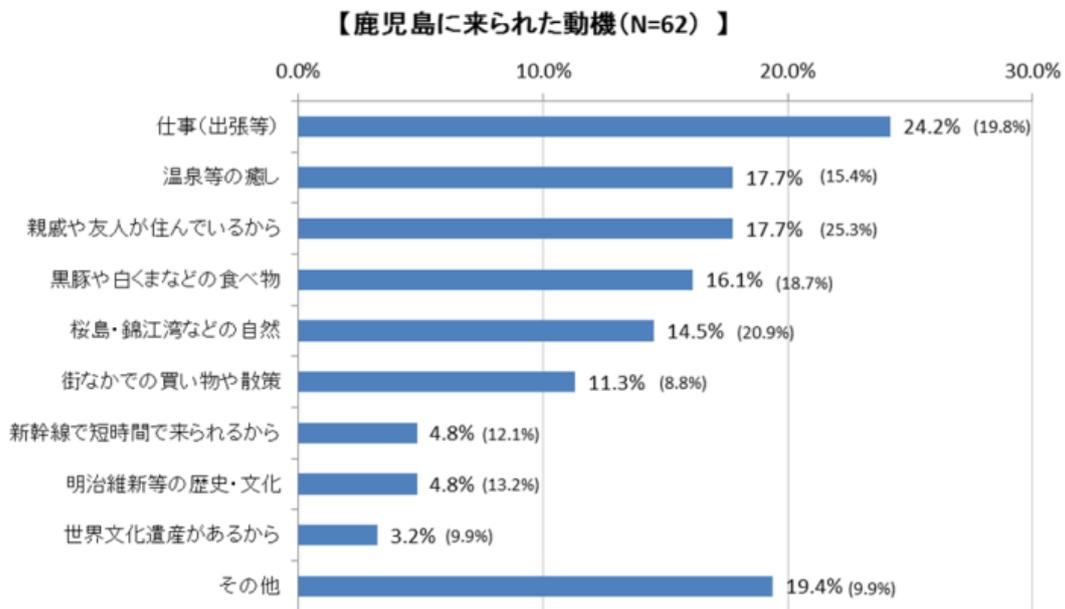
### 県外

鹿児島市	+34.1 ポイント (A : 40.9%—B : 6.8%)
------	---------------------------------

(8) 鹿児島市への来街動機

県外

- |                  |       |
|------------------|-------|
| ① 仕事（出張等）        | 24.2% |
| ② 温泉等の癒し         | 17.7% |
| 親戚や友人が住んでいるから    | 17.7% |
| ④ 黒豚や白くまなどの食べ物   | 16.1% |
| ⑤ 桜島・錦江湾などの自然    | 14.5% |
| ⑥ 街なかでの買い物や散策    | 11.3% |
| ⑦ 新幹線で短時間で来られるから | 4.8%  |
| 明治維新等の歴史・文化      | 4.8%  |
| ⑨ 世界文化遺産があるから    | 3.2%  |



※複数回答のため、合計は100%にならない。回答総数は83件。

※（ ）内は前回調査（27年調査）における割合。

(9) 良い点・満足している点（上位3項目）

市内・県内

【良い点、満足している点の回答件数(地区別)】

地区名	回答件数	うち、「なし」と回答した数	差引
いづろ・天文館地区	976	70	906
鹿児島中央駅地区	988	69	919
上町・ウォーターフロント地区	700	293	407
回答総数	2,664	432	2,232

➤いづろ・天文館地区

- ① 飲食、娯楽等の機能が集積 43.3%
- ② 何でも手に入る 32.9%
- ③ 魅力ある個店がある 22.8%

➤鹿児島中央駅地区

- ① 飲食、娯楽等の機能が集積 33.2%
- ② 何でも手に入る 29.4%
- ③ 魅力ある個店がある 26.6%

➤上町・ウォーターフロント地区

- ① なし 52.6%
- ② 街並み、景観がきれい 21.7%
- ③ 子供を連れてきやすい 12.9%

県外

➤中心市街地全体

- ① 観光地、名所が多い 31.1%
- ② 飲食、娯楽等の機能が集積 27.9%
- 街並み、景観がきれい 27.9%

(10) 悪い点・不満な点（上位3項目）

市内・県内

【悪い点、不満な点の回答件数(地区別)】

地区名	回答件数	うち、「なし」と回答した数	差引
いづろ・天文館地区	709	201	508
鹿児島中央駅地区	606	283	323
上町・ウォーターフロント地区	641	303	338
回答総数	1,956	787	1,169

➤いづろ・天文館地区

- ① なし 36.2%
- ② 駐車場の不足しており不便 27.2%
- ③ 用事が1か所で済まず不便 11.2%

➤鹿児島中央駅地区

- ① なし 51.0%
- ② 駐車場の不足しており不便 18.9%
- ③ 子どもを遊ばせる場が乏しい 7.7%

➤上町・ウォーターフロント地区

- ① なし 54.6%
- ② 交通の便が悪い 16.8%
- ③ 魅力ある個店がない 11.5%

県外

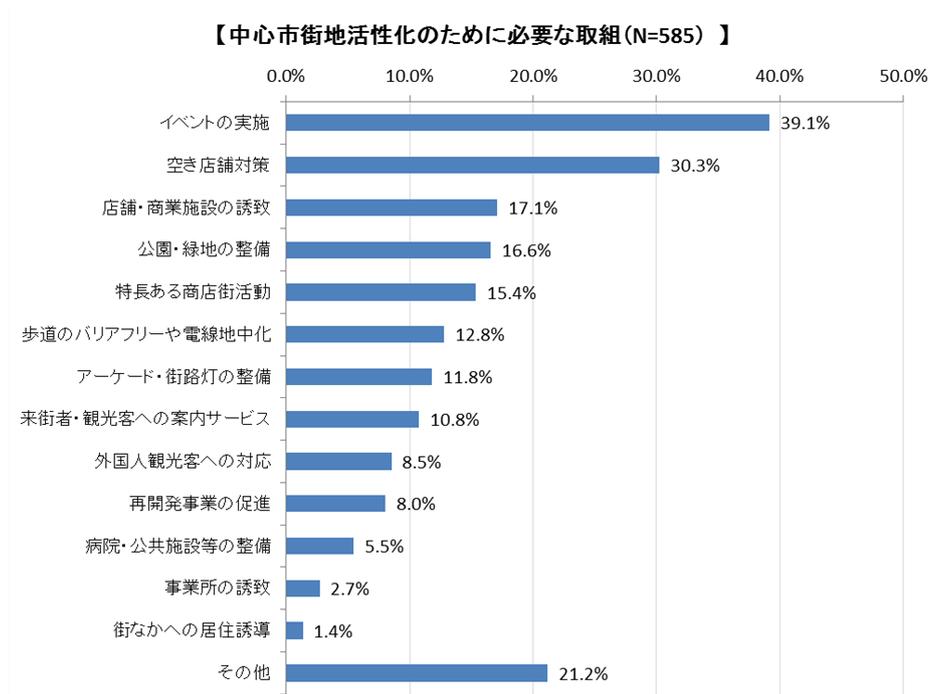
➤中心市街地全体

- ① なし 49.2%
- ② 交通の便が悪い 16.4%
- ③ 希望の品が手に入らない 13.1%
- 駐車場の不足しており不便 13.1%
- 街に活気がない 13.1%

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### (11) 中心市街地活性化に必要な取組（上位3項目）

- ① イベントの実施 39.1%
- ② 空き店舗対策 30.3%
- ③ 店舗・商業施設の誘致 17.1%



※複数回答のため、合計は100%にならない。回答総数は1,177件。

### (12) この1年間で変わったと思うこと、印象に残ったこと

総じて、外国人や若者が増えた、街並み・景観がきれいになった、にぎやかになってきているなどの意見が多かった。

#### ➤いづろ・天文館地区

きれいになったという意見がある一方、活気が無い、寂しくなったなどの意見もみられた。

#### ➤鹿児島中央駅地区

人通りが増えた、若者が増えた、イベントが増えた、にぎわっているなどの意見が多かった。

#### ➤上町・ウォーターフロント地区

28年10月にオープンした「かんまちあ」のことを挙げる意見が多く集まった。

前回調査（27年調査）では、人通りが減ったなどの意見が多く見られたが、今回はマイナスの意見は無かった。

# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

## (2) まちかどコメンテーターアンケート調査

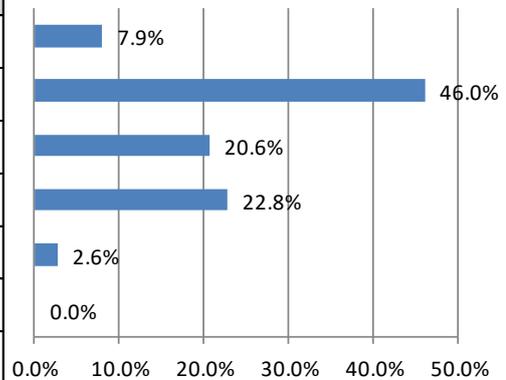
### 【調査概要】

- 調査期間：平成29年6月30日（金）～7月24日（月）
- 調査方法：下記対象者への送付調査
- 対象者：住民基本台帳から無作為抽出した市民2,500人にまちかどコメンテーターへの就任を依頼し、承諾いただいた方と、一般公募に応募していただいた方。
- サンプル数：205人（男性97人、女性108人）

### 【調査結果】

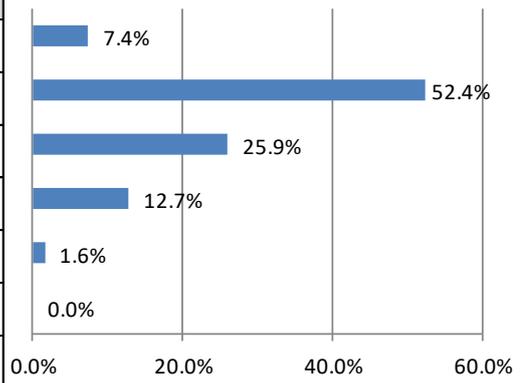
(1) いづろ・天文館地区、鹿児島中央駅地区、上町・ウォーターフロント地区といった中心市街地のにぎわい（人通りや活気）は、5年前と比べてどうなつたと思いますか。

選択肢	回答数	構成比
活気が増している	15	7.9%
どちらかといえば活気が増している	87	46.0%
変わらない	39	20.6%
どちらかといえば元気がなくなつてきた	43	22.8%
元気がなくなつてきた	5	2.6%
無回答	0	0.0%
合計	189	100.0%



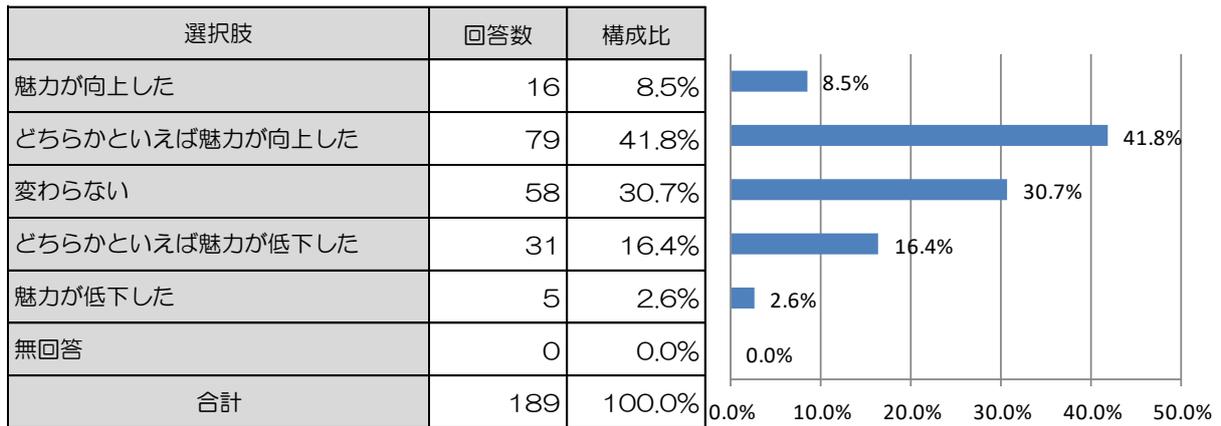
(2) 中心市街地の観光面（観光施設、観光イベント、おもてなし等）での魅力は、5年前と比べてどうなつたと思いますか。

選択肢	回答数	構成比
魅力が向上した	14	7.4%
どちらかといえば魅力が向上した	99	52.4%
変わらない	49	25.9%
どちらかといえば魅力が低下した	24	12.7%
魅力が低下した	3	1.6%
無回答	0	0.0%
合計	189	100.0%

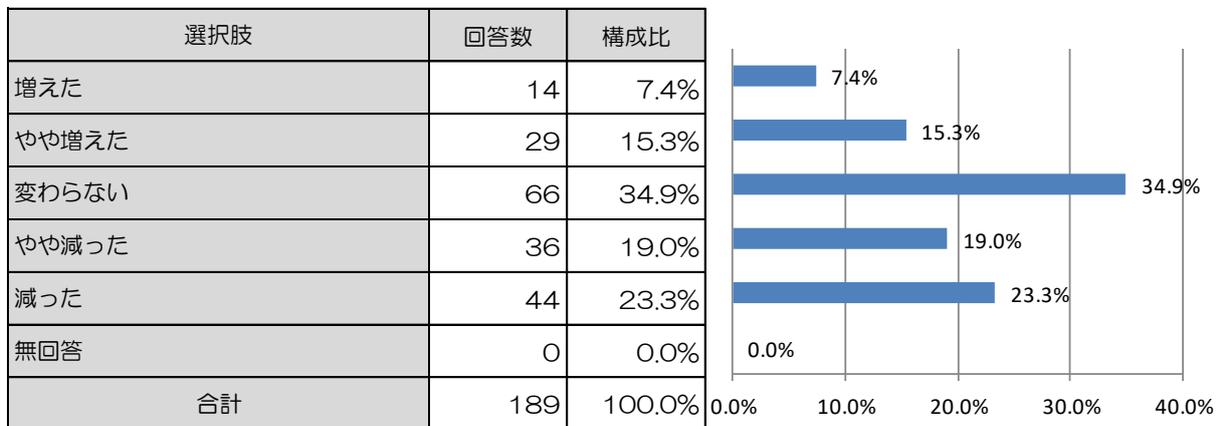


## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

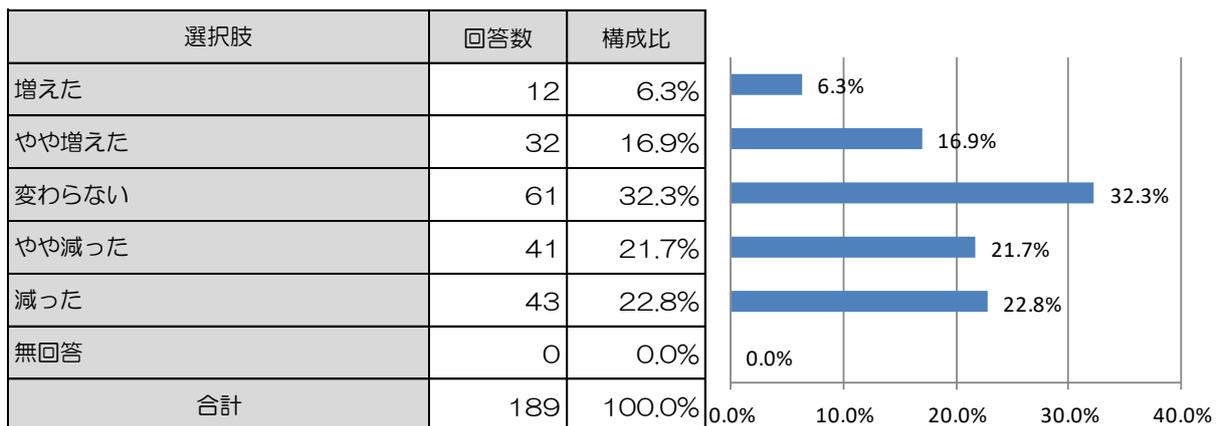
(3) 中心市街地の商業面での魅力（商業施設、商店街イベント等）は、5年前と比べてどうなつたと思いますか。



(4) 平日に、中心市街地に出かける回数は、5年前と比べてどうなりましたか。



(5) 休日に、中心市街地に出かける回数は、5年前と比べてどうなりましたか。

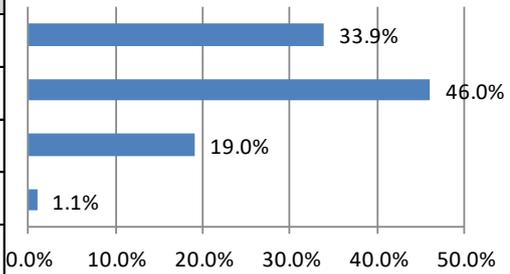


## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

(6) 現在の中心市街地について、どのような印象を持っていますか。

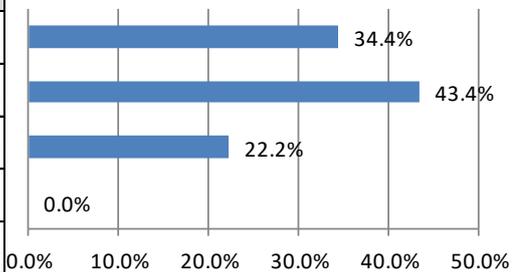
(6)-1 魅力ある店舗や飲食店が多い

選択肢	回答数	構成比
そう思う	64	33.9%
どちらとも言えない	87	46.0%
そう思わない	36	19.0%
無回答	2	1.1%
合計	189	100.0%



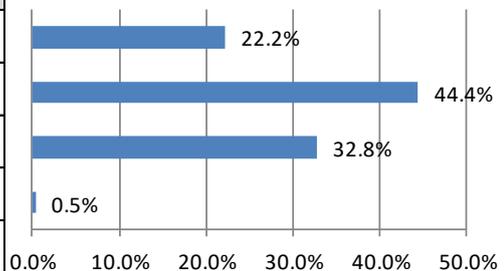
(6)-2 イベントやお祭りが充実している

選択肢	回答数	構成比
そう思う	65	34.4%
どちらとも言えない	82	43.4%
そう思わない	42	22.2%
無回答	0	0.0%
合計	189	100.0%



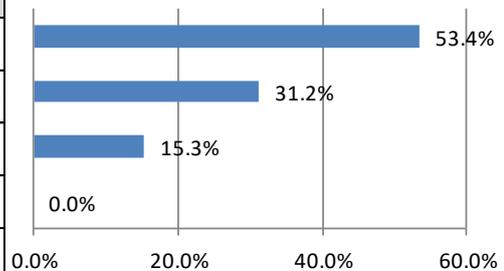
(6)-3 観光客が楽しめる施設や場所が多い

選択肢	回答数	構成比
そう思う	42	22.2%
どちらとも言えない	84	44.4%
そう思わない	62	32.8%
無回答	1	0.5%
合計	189	100.0%



(6)-4 歴史や文化を感じられる

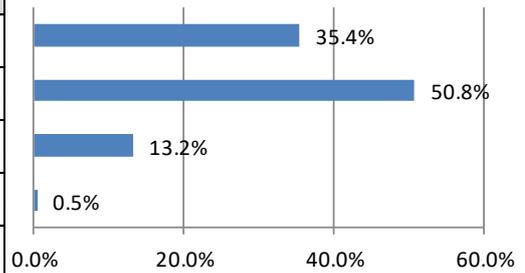
選択肢	回答数	構成比
そう思う	101	53.4%
どちらとも言えない	59	31.2%
そう思わない	29	15.3%
無回答	0	0.0%
合計	189	100.0%



# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

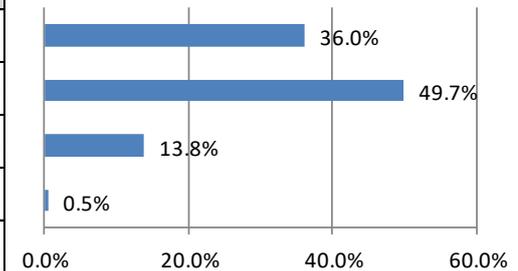
## (6)-5 街並みや景観が美しい

選択肢	回答数	構成比
そう思う	67	35.4%
どちらとも言えない	96	50.8%
そう思わない	25	13.2%
無回答	1	0.5%
合計	189	100.0%



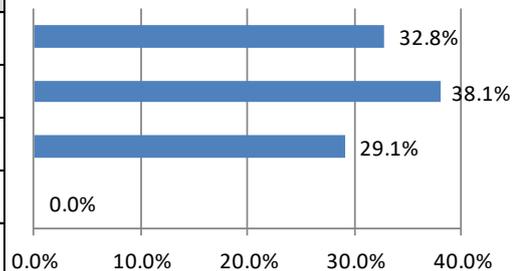
## (6)-6 憩いの場や花・緑が豊か

選択肢	回答数	構成比
そう思う	68	36.0%
どちらとも言えない	94	49.7%
そう思わない	26	13.8%
無回答	1	0.5%
合計	189	100.0%



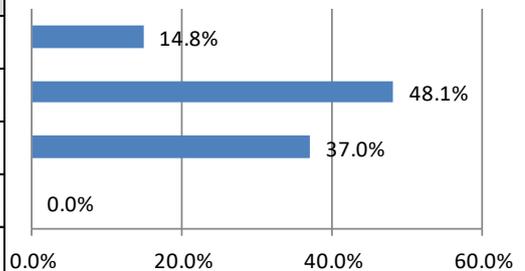
## (6)-7 住んでみたい (住み続けたい)

選択肢	回答数	構成比
そう思う	62	32.8%
どちらとも言えない	72	38.1%
そう思わない	55	29.1%
無回答	0	0.0%
合計	189	100.0%



## (6)-8 娯楽やスポーツが楽しめる

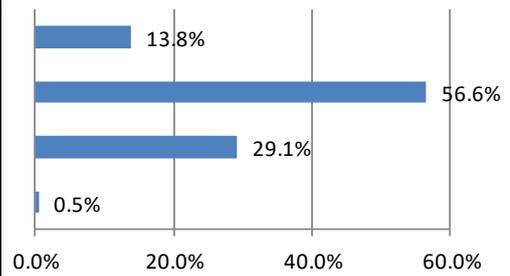
選択肢	回答数	構成比
そう思う	28	14.8%
どちらとも言えない	91	48.1%
そう思わない	70	37.0%
無回答	0	0.0%
合計	189	100.0%



# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

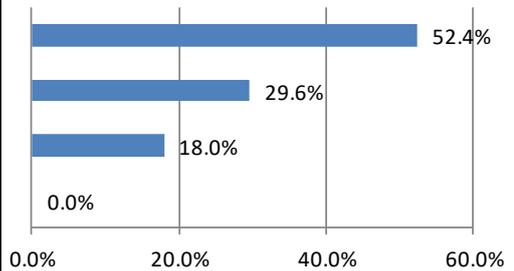
## (6)-9 雇用の場が充実している

選択肢	回答数	構成比
そう思う	26	13.8%
どちらとも言えない	107	56.6%
そう思わない	55	29.1%
無回答	1	0.5%
合計	189	100.0%



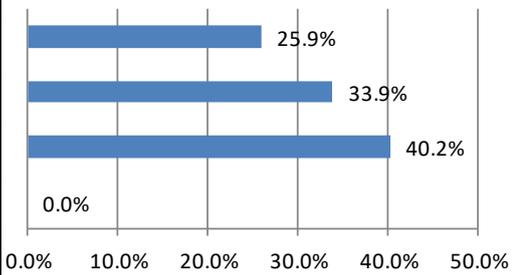
## (6)-10 公共交通機関の利便性が高い

選択肢	回答数	構成比
そう思う	99	52.4%
どちらとも言えない	56	29.6%
そう思わない	34	18.0%
無回答	0	0.0%
合計	189	100.0%



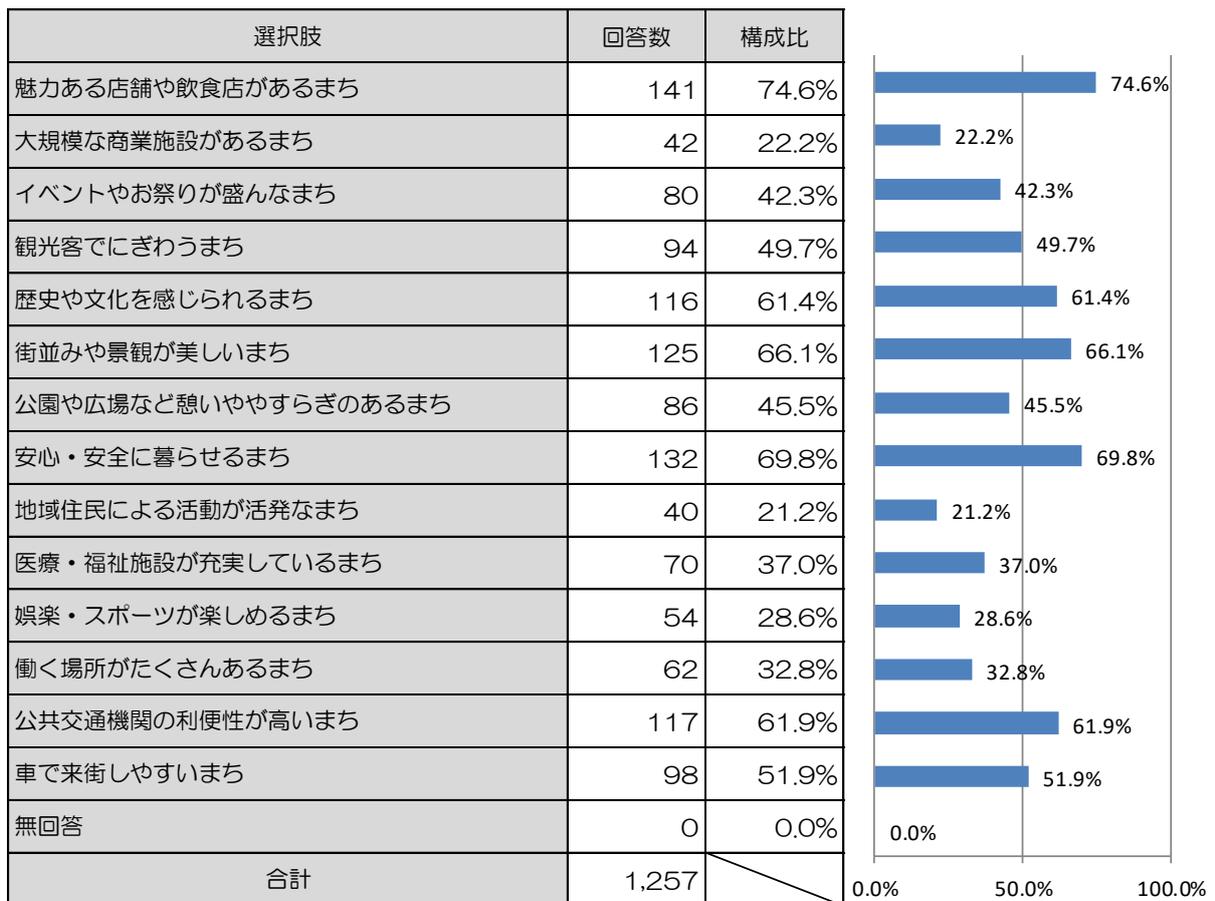
## (6)-11 車で来街しやすい

選択肢	回答数	構成比
そう思う	49	25.9%
どちらとも言えない	64	33.9%
そう思わない	76	40.2%
無回答	0	0.0%
合計	189	100.0%



## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

(7) 中心市街地はどんなまちであってほしいと思いますか。(あてはまるものすべて) (複数回答可) (N=189人)



### ➤調査結果より

5年前と比べて、「中心市街地の活気が増している・どちらかといえば増している」と回答された方が半数を超えた(53.9%)ほか、観光面・商業面で「魅力が向上した・どちらかといえば向上した」と回答された方も同様の傾向(各59.8%、50.3%)にあり、活性化の取組については一定の評価をいただいていることが分かった。

一方で、中心市街地に出かける回数は、平日・休日共に「減った」と「やや減った」の合計(平日42.3%、休日44.5%)が「増えた」と「やや増えた」(平日22.7%、休日23.2%)の合計を上回っており、5年前と比べると来街機会が減少している様子が見えてくる。

「中心市街地はどんなまちであってほしいと思いますか」という問いでは、「魅力ある店舗や飲食店があるまち」と答えた方が75.0%と最も多かったものの、「魅力ある店舗や飲食店が多い」に「そう思う」と答えた方は33.9%にとどまっており、中心市街地では商業・サービス業のさらなる活性化に取り組む必要があることが分かった。

また、「車で来街しやすい」に「そう思わない」と答えた方は40.2%と(6)の設問中最も多く、中心市街地のまちづくりに関する自由意見でも、「駐車場が不足している」・「駐車料金が低い」といった声が寄せられた。

**(3) 民間事業者等との意見交換会**

3期計画策定にあたり、民間事業者・商店街・まちづくり団体等との意見交換会を開催し、中心市街地の活性化のために必要な取組等について協議を行った。

**① 中央駅周辺まちづくり推進協議会（鹿児島中央駅地区）との意見交換会**

- 日 時：平成29年9月6日
- 場 所：JR九州鹿児島支社2階
- 出席者：中央駅周辺まちづくり推進協議会幹事会メンバー及び市職員

**② 上町タウンマネジメント（上町・ウォーターフロント地区）との意見交換会**

- 日 時：平成29年9月7日
- 場 所：内村建設株4階
- 出席者：上町タウンマネジメントメンバー及び市職員

**③ 天文館商店街振興組合連合会（いづろ・天文館地区）との意見交換会**

- 日 時：平成29年9月21日
- 場 所：日専連ビル7階
- 出席者：いづろ・天文館地区の各商店街振興組合の事務局長等及び市職員

**④ 若手経済人の意見交換会**

- 日 時
  - ・第1回：平成29年9月8日
  - ・第2回：平成29年10月2日
  - ・第3回：平成29年11月6日
- 場 所：鹿児島商工会議所14階大会議室
- 出席者：30代～40代の若手経済人（経営者、企業の役員、従業員等）及び市職員

**⑤ 鹿児島商工会議所役員との意見交換会**

- 日 時：平成29年10月25日
- 場 所：鹿児島商工会議所14階大会議室
- 出席者：鹿児島商工会議所役員等及び市職員

**(主な意見)**

- ・定期的なイベントの開催やMICE誘致の強化
- ・クルーズ船の乗客などを中心市街地に誘客するための大型バス乗降場所の整備
- ・民間の自主的な取組の重要性
- ・市電のウォーターフロント地区への延伸
- ・明治維新150周年後の取組
- ・鹿児島駅周辺の交通結節機能の強化
- ・地域資源を生かしたまちづくり

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

- ・ 高齢者や障害者など誰でも楽しめるまちづくり
- ・ 県外への情報発信の強化や海外の若者へのアプローチ など

**[4] これまでの中心市街地活性化に対する取組の検証**

(1) 2期計画の概要

- 計画期間：平成25年4月～平成30年3月（5年）
- 区域面積：約381ha
- コンセプト：「観光・商業・交流によるにぎわいのあるまちづくり」
- 中心市街地の基本的方針

基本的方針1：気軽にまち歩きを楽しめる回遊性のあるまちづくり

基本的方針2：人々が住まい、集い、活気のあるまちづくり

基本的方針3：多面的な魅力とにぎわいあふれるまちづくり

➤目標

基本的方針	目標	目標指標	2期基準値	2期目標値
気軽にまち歩きを楽しめる回遊性のあるまちづくり	目標1 街なかのにぎわい創出と回遊性の向上	歩行者通行量	165,664人/日 (H24年)	171,000人/日 (H29年)
人々が住まい、集い、活気のあるまちづくり	目標2 都市型観光の振興	中心市街地の年間入込観光客数	7,762,000人 (H23年)	8,100,000人 (H29年)
多面的な魅力とにぎわいあふれるまちづくり	目標3 商業・業務機能の集積促進	第三次産業従業者数	62,939人 (H21年)	64,000人 (H29年)

(2) 施策ごとの事業の実施状況と評価

■ 2期計画掲載事業の進捗状況内訳（平成29年10月現在）

	事業数	進捗状況内訳		
		完了	実施中	未着手
4章：市街地の整備改善	15	5	10	0
5章：都市福利施設の整備	7	2	5	0
6章：街なか居住の推進	4(2)	0	4(2)	0
7章：商業の活性化	45(4)	7	38(4)	0
8章：公共交通の利便増進	16	5	11	0
計	87(6)	19	68(6)	0

※カッコ内は、再掲事業の数（内数）

2期計画は、認定を受けた当初は59事業を計画事業として位置づけ、市街地の整備改善や都市福利施設の整備など5つの施策を推進した。その後、毎年度、事業の実施状況等についてフォローアップを行い、中心市街地のおかれている環境の変化に対応し、にぎわい創出や回遊性向上などを一層図るための28事業を追加し、計87事業を計画事業として位置づけ、目標達成に取り組んできた。

新幹線効果を持続・拡大させ、交流人口のさらなる増大を図るための各種プロジェクトを実施したことにより、大型商業施設の増床、新市立病院の建設、都市の杜の整備など都市機能の集積が進み、新たな大型イベント等のソフト事業も官民一体となって展開したことで、

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

年間入込観光客数は着実に増加し、歩行者通行量も鹿児島中央駅地区で増加傾向にあるなど、本市の中心市街地は一定の活性化が進んでいる。

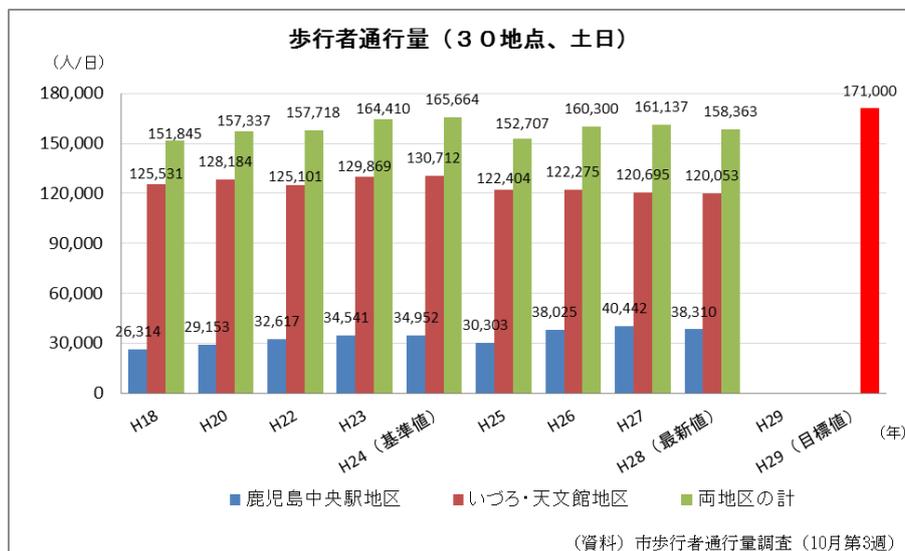
一方、目標指標に掲げた歩行者通行量と第三次産業の従業者数の目標達成は厳しい状況にある。また、市街地再開発事業など一部事業で完了時期が延期となったことで、事業効果が十分に発現されていない面もある。その他、この10年間で、小売店舗数は減少し、小売業年間商品販売額は伸び悩み、空き店舗率は一旦改善したものの増加傾向にあるなど、本市の経済活動の中心的役割を担う中心市街地を取り巻く環境は依然厳しい状況にあると考えられる。

(3) 数値目標の達成状況・分析

目標1 「街なかのにぎわい創出と回遊性の向上」

目標指標	基準値 (H24年)	最新値 (H28年)	目標値 (H29年)
歩行者通行量	165,664 人/日	158,363 人/日	171,000 人/日

1) 数値目標の達成状況、評価、分析



- ※調査方法：歩行者通行量調査
- ※調査月：毎年度10月第3週土日
- ※調査主体：鹿児島市
- ※調査対象：中心市街地30地点の歩行者及び自転車等の軽車両通行者（土日平均）

平成28年の歩行者通行量は158,363人/日と、基準値である24年より7,301人/日（約4.4%）減少、27年より2,774人/日（約1.7%）減少した。24年の基準値を引き続き下回り、29年の目標値まであと約1万3千人という状況である。

これまで実施してきた外国人観光客の誘客強化や各種イベント等の取組により、年間入込観光客数は4年連続で増加し、また、5年前と比べて中心市街地の商業面・観光面での魅力は向上したと答えた市民の割合はそれぞれ半数を超えるなど、一定の活性化が図られている。一方、中心市街地外の大型商業施設の増加やネット通販の影響などにより、中心市街地における商業の集積度合いは相対的に低下し、市民の来街機会も減少している。

地区別の傾向として、いづろ・天文館地区は、基準年の24年から4年連続の減少となった。27年比では0.5%減と微減ながら、18年以降で最も低い数字となり、さらに厳しさが増している。鹿児島中央駅地区は3年ぶりに減少したものの、この10年で最も通行量が多かった27年に次ぐ結果であった。これは、同地区におけるこれまでの中心市街地活性化の取組により底上げが図られた結果、調査日における降雨の影響を受けつつも高水準で推移したものである。

目標達成までの約1万3千人の増については、30年の明治維新150周年や大河ドラマ「西郷どん」放送に向けた事業展開による効果が期待できるものの、中央町19・20番街区市街地再開発事業及び東千石町12番街区整備事業の進捗が当初見込みよりも遅れていることや、

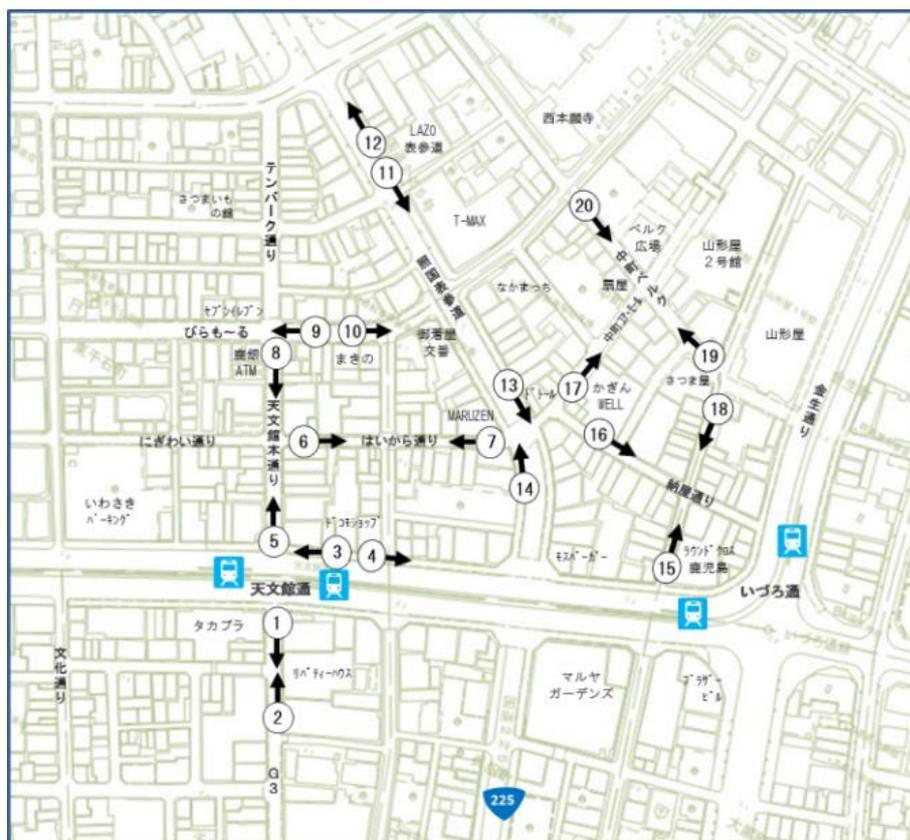
## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

鹿児島市立美術館施設整備事業及び天文館シネマパラダイスと周辺商店街連携事業の事業効果が見込みを下回っていることなどから、計画最終年度の29年度における目標達成は厳しい状況にある。

# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

## 歩行者通行量調査地点図

・いづろ・天文館地区 (20 地点)

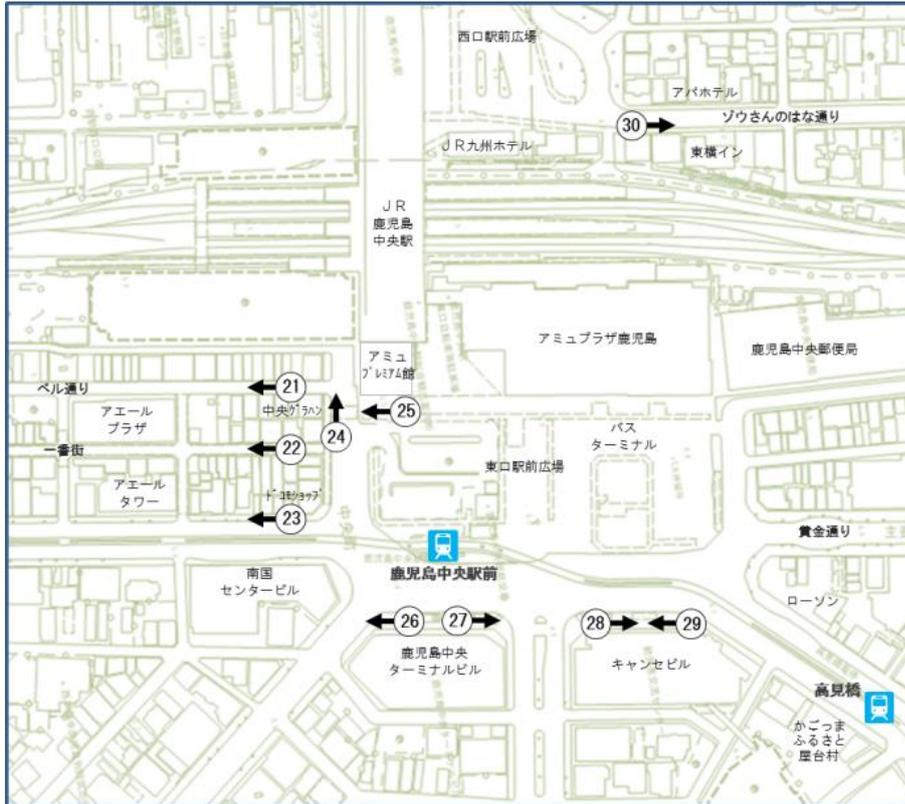


地点	H18	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
1	12,724	13,717	11,547	12,766	13,866	14,434	12,872	12,050	11,471	11,174
2	11,747	8,908	13,864	9,167	12,241	12,049	10,913	10,802	11,487	10,521
3	6,292	6,231	6,324	6,590	7,239	7,042	6,388	5,176	6,055	6,457
4	5,403	4,846	4,903	5,305	5,554	5,502	5,272	4,735	4,777	4,925
5	12,743	12,884	14,167	14,140	12,567	12,102	11,758	11,904	11,521	12,314
6	8,030	7,581	6,923	6,617	6,220	6,810	6,175	6,185	6,138	6,048
7	8,831	8,629	9,003	6,987	7,678	7,598	7,162	6,837	6,461	6,475
8	8,179	8,835	7,813	7,868	7,614	7,613	7,408	7,731	7,080	7,842
9	5,461	5,883	6,319	5,061	4,846	5,873	4,890	5,042	4,843	4,753
10	6,069	7,199	6,508	5,927	5,134	4,964	4,650	5,505	5,235	5,355
11	2,019	2,338	2,371	2,586	2,180	4,459	3,008	4,120	3,994	3,659
12	1,388	1,422	1,572	1,457	1,314	2,990	2,363	3,165	3,172	2,268
13	4,393	4,363	4,351	4,080	4,138	4,560	3,979	4,362	4,290	4,387
14	2,712	3,402	2,653	2,781	2,381	2,516	2,491	2,294	2,362	2,048
15	5,800	4,187	4,699	6,244	6,362	5,264	5,444	4,962	4,922	5,069
16	3,129	4,164	3,685	3,287	7,006	6,359	5,774	6,346	6,359	6,168
17	5,093	5,176	4,918	5,301	5,058	4,817	4,518	4,940	4,440	4,932
18	6,519	5,694	5,330	6,328	6,045	4,431	5,378	4,468	5,052	4,732
19	6,203	9,821	8,835	9,766	9,491	8,470	8,659	8,355	7,696	8,060
20	2,799	2,909	2,853	2,848	2,940	2,865	3,302	3,296	3,340	2,866
合計	125,531	128,184	128,635	125,101	129,869	130,712	122,404	122,275	120,695	120,053

凡例：■ 基準年（24年）比10%以上減少

# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

## ・鹿児島中央駅地区（10地点）



地点	H18	H20	H22	H24	H25	H26	H27	H28
21	2,034	1,712	1,525	2,061	1,791	2,061	2,012	1,690
22	2,910	1,896	2,700	2,729	2,009	2,810	2,718	3,292
23	702	686	645	673	528	586	676	567
24	4,554	4,244	5,543	6,573	6,302	8,554	7,820	8,612
25	6,534	6,227	7,822	7,495	6,685	7,873	7,154	7,726
26	3,970	2,954	2,578	3,258	3,364	4,013	4,211	2,983
27	3,223	2,487	2,092	3,189	2,414	3,006	3,788	2,614
28	2,700	2,411	2,715	2,348	2,561	2,621	2,987	1,631
29	4,025	3,554	3,552	4,346	2,954	4,489	5,967	6,636
30	2,574	2,986	3,448	2,283	1,695	2,012	3,109	2,559
合計	26,314	29,153	32,617	34,952	30,303	38,025	40,442	38,310

凡例： ■ 基準年（24年）比10%以上増加、 ■ 同10%以上減少

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### 2) 目標達成に寄与する主な事業の概要、成果等

#### ①. 中央町19・20番街区市街地再開発事業（中央町19・20番街区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成32年度【実施中】
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町19・20番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	25年度に事業の見直しを行い、事業期間の延長を行った。27年度に都市計画決定（高度利用地区・市街地再開発事業等）を行い、28年度は事業計画を策定し、市街地再開発組合が設立された。29年度には既存建築物の解体及び工事着工を予定するなど、市街地再開発事業の取組を着実に進めた。事業は32年度に完了する予定であり、2期計画期間内での事業効果は見込めない。  目標設定時に見込んだ事業効果：1,634人/日

#### ②. 中央町1番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）（九州旅客鉄道株式会社）

事業完了時期	平成26年度【済】
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場を増築。
事業効果又は進捗状況	25年3月に立体駐車場の増築工事が完了。26年9月にプレミアム館オープン。28年度のアミュプラザ鹿児島の営業実績は、4月の熊本震災による影響が一時あったものの、売上高、入館者数ともに前年を上回る過去最高を記録した。事業の完了により、歩行者通行量は約2,000人/日増加したと見込まれるなど、街なかのにぎわい創出に寄与している。  目標設定時に見込んだ事業効果：1,232人/日 事業完了による効果：約2,000人/日

#### ③. 東千石町12番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）

事業完了時期	平成26年度～【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

事業効果又は進捗状況	<p>26年度に事業計画を再検討。その後は街区内の関係権利者と土地利用について協議を行っているほか、施設整備計画の内容を充実させる事を目的として街区内の土地の一部買収などを行った。事業は3期計画でも引き続き実施する予定であり、2期計画期間内での事業効果は見込めない。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：1,606人/日</p>
------------	--

### ④. 鹿児島市立美術館施設整備事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成28年度【済】
事業概要	市立美術館の建物・機械・電気機器等の機能更新を行うとともに、ミュージアムショップや前庭を活用したオープンカフェ等を設置。
事業効果又は進捗状況	<p>27年度に空調・電気機器等の機能更新を行うとともに、喫茶室等の工事設計を行った。28年度に喫茶室等の改修工事が完了し、29年3月にオープンカフェとミュージアムショップがオープンした。事業完了後の美術館の観覧者数は11万人（H29.4～10）と、基準年である24年の実績値10万3千人（H24.4～10）を上回っているものの、事業による効果は見込みを下回っている。</p> <p>（実績）市立美術館観覧者数（年間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・25年度：約15万8千人</li> <li>・26年度：約14万3千人</li> <li>・27年度：約14万5千人</li> <li>・28年度：約12万3千人</li> </ul> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：72人/日 事業完了による効果：約40人/日</p>

### ⑤. 天文館シネマパラダイスと周辺商店街連携事業（株式会社天文館、周辺商店街）

事業完了時期	平成24年度～【実施中】
事業概要	商店街等と映画館の相互協力により、いづろ・天文館地区への来街者に対して、映画鑑賞チケットの半券を活用した「半券バリュー」などのサービスを提供するほか、毎月10日のテンパラデーにあわせ、周辺商店街において、映画観賞者の駐車場料金無料の時間延長や各種イベント等を連携して実施。

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

<b>事業効果又は進捗状況</b>	<p>商店街と連携し、各店舗で商品の割引やソフトドリンクの無料追加等の取組を実施するなど、にぎわいづくりに努めているものの、天文館シネマパラダイスの利用者が当初の想定（27万人/年）に達していないこともあり、事業による効果は見込みを下回っている。</p> <p>（実績）天文館シネマパラダイス利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・25年度：約14万5千人</li> <li>・26年度：約14万4千人</li> <li>・27年度：約15万1千人</li> <li>・28年度：約17万2千人</li> </ul> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：1,480人/日 事業による効果：約940人/日</p>
-------------------	--

### ⑥. 街なか空き店舗活用事業（鹿児島市）

<b>事業完了時期</b>	平成18年度～【実施中】
<b>事業概要</b>	<p>商店街等が空き店舗を活用してテナントミックスやチャレンジショップを行い、新たな魅力を有する店舗を出店させる取組に対して、家賃補助等の助成を行う。</p>
<b>事業効果又は進捗状況</b>	<p>25年度から28年度にかけて、計11店舗が開業し、整備経費や借上経費等を助成した。事業の実施により、ほぼ見込みどおりの効果が得られており、街なかのにぎわい創出に寄与している。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：104人/日 事業による効果：約100人/日</p>

### ⑦. 鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業（公園・地域生活基盤施設）

<b>事業完了時期</b>	平成28年度【済】
<b>事業概要</b>	<p>鹿児島駅周辺の低未利用地である旧国鉄用地（浜町1番5）に公園、広場、駐車場を整備。</p>
<b>事業効果又は進捗状況</b>	<p>25年度に基本計画を策定し、26年度に基本設計・実施設計及び用地取得を行った。27年度には整備工事に着手し、28年10月に「かんまちあ」（上町ふれあい広場、上町の杜公園）として供用開始。人々のふれあい及び交流を促進し、地域のにぎわいを創出するため、屋根付きイベント広場や芝生広場、遊具などを設置。各種イベント等で活用されているほか、市民・観光客の憩いの場として親しまれており、事業の完了により、歩行者通行量は約70人/日増加したと見込まれる。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：－ 事業完了による効果：約70人/日</p>

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### ⑧. 【追加】千日町1・4番街区市街地再開発事業（千日町1・4番街区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成33年度【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区の千日町1・4番街区において、電車通りに面し、バス停留所やアーケード入口に隣接する立地性を生かし、物販・飲食店舗、ホテル、オフィス等を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	28年度に市の都市計画決定を受け、事業計画案を作成するなど、市街地再開発事業の取組を着実に進めた。事業は33年度に完了する予定であり、2期計画期間内での事業効果は見込めない。  目標設定時に見込んだ事業効果：－

### ⑨. 【追加】市立病院跡地緑地整備事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成28年度～【実施中】
事業概要	市立病院移転後の跡地（旧本館等跡地）において、近接する甲突川左岸緑地との連続性を生み出し、中心市街地の回遊性の向上に資する新たな潤いの拠点となる緑地を整備。
事業効果又は進捗状況	28年度は、緑地の整備に向けて、基本計画（素案）の作成や測量等に取り組んだ。29年度は、基本計画（素案）に係るパブリックコメント手続を行い、基本計画を策定し、基本・実施設計等に取り組んでいる。事業は3期計画でも引き続き実施する予定であり、2期計画期間内での事業効果は見込めない。  目標設定時に見込んだ事業効果：－

### ⑩. 【追加】鶴丸城楼門建設事業（鶴丸城御楼門建設協議会、鹿児島県）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	明治6年（1873年）に焼失した鶴丸城本丸の大手門である御楼門や、楼門と連なり城郭を構成する重要な要素である御角櫓を建設し、歴史、文化、建築技術の継承とともに新たな観光拠点とする事業。
事業効果又は進捗状況	27年度に楼門建設の基本設計を行うとともに、建設に必要な大径木調査及び鹿児島（鶴丸）城跡保存活用計画の策定等を行った。28年度は、御楼門建設に係る実施設計や建設に必要な大径木の確保、御角櫓の基本設計等に取り組んだ。事業は31年度に完了する予定であり、2期計画期間内での事業効果は見込めない。  目標設定時に見込んだ事業効果：－

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### ⑪. 【追加】鹿児島銀行新本店ビル建設事業（株鹿児島銀行）

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	鹿児島銀行本店ビルを建替え、市内に分散している業務機能等を集約し金融サービスの一層の充実を図るとともに、同ビル内に商業施設を整備。
事業効果又は進捗状況	28 年度に立体駐車場が完成したほか、本館と泉町別館の解体に着手した。事業は 31 年度に完了する予定であり、2 期計画期間内での事業効果は見込めない。  目標設定時に見込んだ事業効果：－

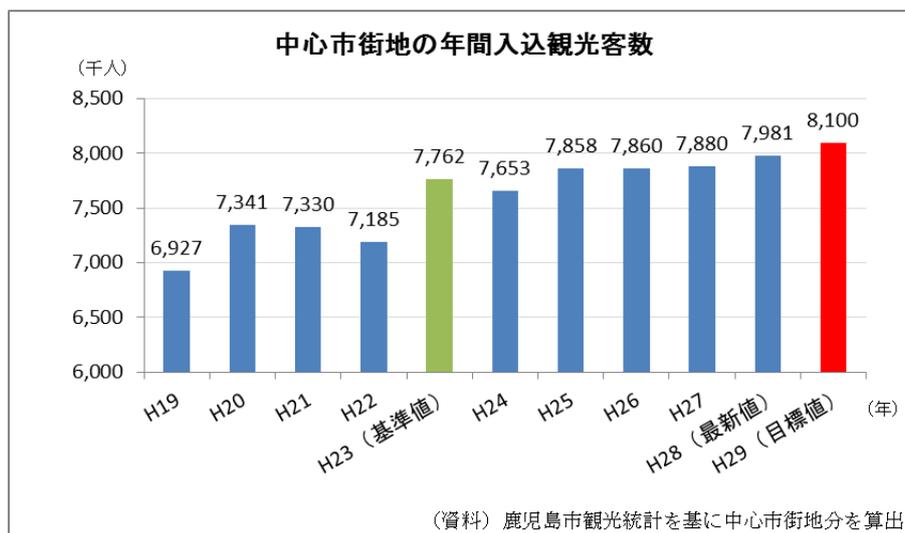
### ⑫. 【追加】コミュニティサイクル運営事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	複数のサイクルポート（自転車貸出拠点）を配置し、どのサイクルポートでも貸出・返却ができるコミュニティサイクルを実施
事業効果又は進捗状況	27 年 3 月よりコミュニティサイクル「かごりん」が供用開始。28 年度は、市民や観光客による利用が約 13 万 8 千回に達した。事業の実施により、歩行者通行量は約 80 人/日増加したと見込まれるなど、中心市街地内の回遊性向上が図られている。  (実績) 利用回数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・26 年度：約 2 万 3 千人（※1 か月分：H27.3～供用開始）</li> <li>・27 年度：約 13 万 2 千人</li> <li>・28 年度：約 13 万 8 千人</li> </ul> 目標設定時に見込んだ事業効果：－ 事業完了による効果：約 80 人/日

目標2 「都市型観光の振興」

目標指標	基準値 (H23年)	最新値 (H28年)	目標値 (H29年)
中心市街地の年間入込観光客数	7,762,000人	7,981,000人	8,100,000人

1) 数値目標の達成状況、評価、分析



※調査方法：鹿児島市観光統計を基に中心市街地分を算出

※調査月：前年1月～12月分

※調査主体：鹿児島市

※調査対象：鉄道、バス、自家用車、船舶等の各種交通機関を利用した観光客

平成28年の中心市街地の年間入込観光客数は798万1千人と、前年に比べ10万1千人増(1.3%増)、23年の基準値に比べ21万9千人増(2.8%増)であった。

26年度には桜灯りと水上の音楽祭(観光イベント創出支援事業)及び薩摩維新ふるさと博が、27年度にはかごしまの風と光とナポリ祭、天文館六月灯ゆかた祭り(いずれも観光イベント創出支援事業)、錦江湾潮風フェスタ、天文館ミリオネーション及び鹿児島マラソンが、28年度にはカレーフェスタ in Kagoshima(“美味のまち鹿児島”づくりイベント支援事業)及び焼酎ストリート(観光イベント創出支援事業)がそれぞれ初開催され、多くの人出でにぎわったことや、年間を通じて行われる多彩なイベントの開催によるにぎわい創出効果などにより、年間入込観光客数は4年連続で増加したと考えられる。

また、市全体の観光動向として、九州新幹線全線開業効果が維持されていることや、上海線・香港線の増便、クルーズ船の寄港回数の増加などにより、入込観光客数は増加しており、このことも中心市街地にプラスの影響を与えている。

アミュプラザ鹿児島の増床による効果が当初見込みを上回っていることに加え、天文館ミリオネーション、鹿児島マラソンといった大型イベントの開催や外国人観光客の受入対策等にも引き続き取り組むこと、さらに、30年の明治維新150周年や大河ドラマ「西郷どん」放送に向けた事業展開も予定していることから、中心市街地の年間入込観光客数の目標達成は可能であると見込んでいる。

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### 2) 目標達成に寄与する主な事業の概要、成果等

#### ①. 中央町 19・20 番街区市街地再開発事業（中央町 19・20 番街区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成 32 年度【実施中】
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町 19・20 番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	25 年度に事業の見直しを行い、事業期間の延長を行った。27 年度に都市計画決定（高度利用地区・市街地再開発事業等）を行い、28 年度は事業計画を策定し、市街地再開発組合が設立された。29 年度には既存建築物の解体及び工事着工を予定するなど、市街地再開発事業の取組を着実に進めた。事業は 32 年度に完了する予定であり、2 期計画期間内での事業効果は見込めない。  目標設定時に見込んだ事業効果：6.5 万人

#### ②. 中央町 1 番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）（九州旅客鉄道株式会社）

事業完了時期	平成 26 年度【済】
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場を増築。
事業効果又は進捗状況	25 年 3 月に立体駐車場の増築工事が完了。26 年 9 月にプレミアム館オープン。28 年度のアミュプラザ鹿児島の営業実績は、4 月の熊本震災による影響が一時あったものの、売上高、入館者数ともに前年を上回る過去最高を記録した。事業の完了により、年間入込観光客数は 41.1 万人増加したと見込まれるなど、都市型観光の振興に寄与している。  目標設定時に見込んだ事業効果：24.3 万人 事業完了による効果：41.1 万人

#### ③. 東千石町 1 2 番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

事業効果又は進捗状況	<p>26年度に事業計画を再検討。その後は街区内の関係権利者と土地利用について協議を行っているほか、施設整備計画の内容を充実させる事を目的として街区内の土地の一部買収などを行った。事業は3期計画でも引き続き実施する予定であり、2期計画期間内での事業効果は見込めない。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：14.3万人</p>
------------	--

### ④. 鹿児島市立美術館施設整備事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成28年度【済】
事業概要	市立美術館の建物・機械・電気機器等の機能更新を行うとともに、ミュージアムショップや前庭を活用したオープンカフェ等を設置。
事業効果又は進捗状況	<p>27年度に空調・電気機器等の機能更新を行うとともに、喫茶室等の工事設計を行った。28年度に喫茶室等の改修工事が完了し、29年3月にオープンカフェとミュージアムショップがオープンした。事業完了後の美術館の観覧者数は11万人（H29.4～10）と、基準年である24年の実績値10万3千人（H24.4～10）を上回っているものの、事業による効果は見込みを下回っている。</p> <p>（実績）市立美術館観覧者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・25年度：約15万8千人</li> <li>・26年度：約14万3千人</li> <li>・27年度：約14万4千人</li> <li>・28年度：約12万4千人</li> </ul> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：0.3万人 事業完了による効果：0.2万人</p>

### ⑤. 【追加】千日町1・4番街区市街地再開発事業（千日町1・4番街区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成33年度【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区の千日町1・4番街区において、電車通りに面し、バス停留所やアーケード入口に隣接する立地性を生かし、物販・飲食店舗、ホテル、オフィス等を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	<p>28年度に市の都市計画決定を受け、事業計画案を作成するなど、市街地再開発事業の取組を着実に進めた。事業は33年度に完了する予定であり、2期計画期間内での事業効果は見込めない。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：－</p>

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

⑥. 【追加】薩摩維新ふるさと博開催事業（薩摩維新ふるさと博実行委員会）

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	幕末・維新期の薩摩を感じられるイベントの実施
事業効果又は進捗状況	<p>幕末・維新期の衣装に身を包んだキャストによるおもてなしやお芝居等が行われた会場には、毎年多くの方が来場している。事業の実施により、年間入込観光客数は 1.1 万人増加したと見込まれるなど、都市型観光の振興に寄与している。</p> <p>（実績）来場者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 26 年度：約 12 万 8 千人（18 日間）</li> <li>・ 27 年度：約 15 万 5 千人（24 日間）</li> <li>・ 28 年度：約 7 万 7 千人（15 日間）</li> </ul> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：－ 事業による効果：1.1 万人</p>

⑦. 【追加】錦江湾潮風フェスタ開催事業（錦江湾潮風フェスタ実行委員会）

事業完了時期	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	錦江湾の魅力を活用したイベントの開催
事業効果又は進捗状況	<p>錦江湾とウォーターフロントを舞台に多くの市民・県民・観光客が直接参加・体験できるイベントを開催。事業の実施により、年間入込観光客数は 9 千人増加したと見込まれるなど、都市型観光の振興に寄与している。</p> <p>（実績）来場者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 26 年度：台風の影響により中止</li> <li>・ 27 年度：約 6 万人</li> <li>・ 28 年度：台風の影響により中止</li> </ul> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：－ 事業による効果：0.9 万人</p>

⑧. 【追加】天文館ミリオネーション開催事業（天文館ミリオネーション実行委員会）

事業完了時期	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地で新たに冬の季節に大規模なイルミネーションで光の空間を創り出すイベントを開催。

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

事業効果又は進捗状況	<p>25年度にリニューアルオープンした天文館公園を中心に、12月から1月にかけて大規模なイルミネーションによる光の空間を創出するイベントを開催。事業の実施により、年間入込観光客数は2.7万人増加したと見込まれるなど、冬季における都市型観光の振興に寄与している。</p> <p>(実績) 来場者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・27年度：約17万人</li> <li>・28年度：約18万5千人</li> </ul> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：－</p> <p>事業による効果：2.7万人</p>
------------	--

### ⑨. 【追加】鹿児島マラソン開催事業（鹿児島マラソン実行委員会）

事業完了時期	平成27年度～【実施中】
事業概要	鹿児島らしい魅力あるフルマラソン大会の開催。
事業効果又は進捗状況	<p>27年度から史跡や景観など本市の魅力を体感できる「鹿児島マラソン」を開催。事業の実施により、年間入込観光客数は2万人増加したと見込まれるなど、冬季における都市型観光の振興に寄与している。</p> <p>(実績) 参加選手及び観覧者等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・27年度：約15万8千人</li> <li>・28年度：約13万8千人</li> </ul> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：－</p> <p>事業による効果：2.0万人</p>

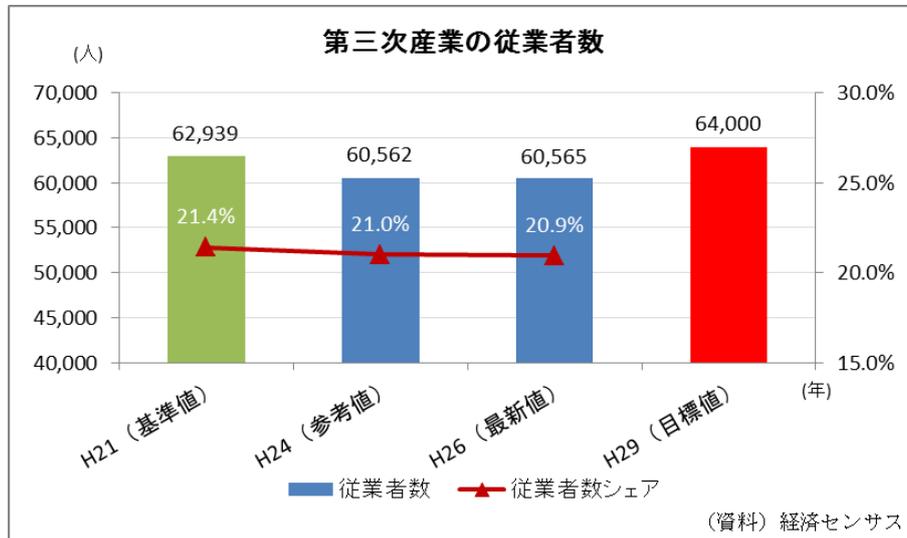
### ⑩. 【追加】鶴丸城楼門建設事業（鶴丸城御楼門建設協議会、鹿児島県）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	明治6年（1873年）に焼失した鶴丸城本丸の大手門である御楼門や、楼門と連なり城郭を構成する重要な要素である御角櫓を建設し、歴史、文化、建築技術の継承とともに新たな観光拠点とする事業。
事業効果又は進捗状況	<p>27年度に楼門建設の基本設計を行うとともに、建設に必要な大径木調査及び鹿児島（鶴丸）城跡保存活用計画の策定等を行った。28年度は、楼門建設に係る実施設計や建設に必要な大径木の確保、御角櫓の基本設計等に取り組んだ。事業は31年度に完了する予定であり、2期計画期間内での事業効果は見込めない。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：－</p>

**目標3 「商業・業務機能の集積促進」**

目標指標	基準値 (H21年)	最新値 (H26年)	目標値 (H29年)
第三次産業従業者数	62,939人	60,565人	64,000人

1) 数値目標の達成状況、評価、分析



※調査方法：経済センサス  
 ※調査主体：総務省統計局  
 ※調査対象：中心市街地における第三次産業の従業者数

1期計画に位置付けた各種施設（かごつまふるさと屋台村、鹿児島中央ターミナルビル、LAZO（ラソ）表参道）の開業・供用開始などによる効果の発現があったものの、最新値（26年）は基準値を下回る状況にある。

26年の経済センサス基礎調査以降も、都市型産業振興事業による企業立地の効果や、2期計画に位置付けた新市立病院、交通局局舎・電車施設の供用開始、アミュプラザ鹿児島の増床などがあったものの、中央町19・20番街区市街地再開発事業及び東千石町12番街区整備事業の進捗が当初見込みよりも遅れていることや、街なか空き店舗活用事業の事業効果が見込みを下回っていること、また、商品販売、各種サービスの求人に見込みよりも求職者が集まらない状況などもあり、第三次産業従業者数の目標達成は厳しい状況である。

2) 目標達成に寄与する主な事業の概要、成果等

①. 中央町19・20番街区市街地再開発事業（中央町19・20番街区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成32年度【実施中】
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町19・20番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

事業効果又は進捗状況	<p>25年度に事業の見直しを行い、事業期間の延長を行った。27年度に都市計画決定（高度利用地区・市街地再開発事業等）を行い、28年度は事業計画を策定し、市街地再開発組合が設立された。29年度には既存建築物の解体及び工事着工を予定するなど、市街地再開発事業の取組を着実に進めた。事業は32年度に完了する予定であり、2期計画期間内での事業効果は見込めない。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：203人</p>
------------	--

### ②. 中央町1番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島増床など）（九州旅客鉄道株式会社）

事業完了時期	平成26年度【済】
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場を増築。
事業効果又は進捗状況	<p>25年3月に立体駐車場の増築工事が完了。26年9月にプレミアム館オープン。28年度のアミュプラザ鹿児島の営業実績は、4月の熊本震災による影響が一時あったものの、売上高、入館者数ともに前年を上回る過去最高を記録した。事業の完了により、第三次産業従業者数は約300人増加したと見込まれるなど、商業・業務機能の集積促進に寄与している。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：264人 事業完了による効果：約300人</p>

### ③. 東千石町12番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）

事業完了時期	平成26年度～【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。
事業効果又は進捗状況	<p>26年度に事業計画を再検討。その後は街区内の関係権利者と土地利用について協議を行っているほか、施設整備計画の内容を充実させる事を目的として街区内の土地の一部買収などを行った。事業は3期計画でも引き続き実施する予定であり、2期計画期間内での事業効果は見込めない。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：115人</p>

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### ④. 街なか空き店舗活用事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	商店街等が空き店舗を活用してテナントミックスやチャレンジショップを行い、新たな魅力を有する店舗を出店させる取組に対して、家賃補助等の助成を行う。
事業効果又は進捗状況	25 年度から 28 年度にかけて、計 11 店舗が開業し、整備経費や借上経費等を助成した。事業による効果は約 50 人と、見込みを下回っている。  目標設定時に見込んだ事業効果：79 人 事業による効果：約 50 人

### ⑤. 【追加】千日町 1・4 番街区市街地再開発事業（千日町 1・4 番街区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成 33 年度【実施中】
事業概要	いづろ・天文館地区の千日町 1・4 番街区において、電車通りに面し、バス停留所やアーケード入口に隣接する立地性を生かし、物販・飲食店舗、ホテル、オフィス等を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	28 年度に市の都市計画決定を受け、事業計画案を作成するなど、市街地再開発事業の取組を着実に進めた。事業は 33 年度に完了する予定であり、2 期計画期間内での事業効果は見込めない。  目標設定時に見込んだ事業効果：－

### ⑥. 都市型産業振興事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成 11 年度～【実施中】
事業概要	ソフトプラザかごしまを活用した情報関連産業の育成・支援を行うとともに、本市の都市機能の集積を生かした企業立地の推進に取り組む。
事業効果又は進捗状況	25 年度から 28 年度にかけて、中心市街地への立地について計 20 件の協定を締結（内、ソフトプラザかごしま：6 社）した。事業の実施により、第三次産業従業者数は約 820 人増加するなど、商業・業務機能の集積促進に寄与している。  目標設定時に見込んだ事業効果：－ 事業による効果：約 820 人

### ⑦. 鹿児島市立病院建設事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成 26 年度【済】
事業概要	市民が 24 時間安心して生活できる医療機能を備え、高度で質の高い医療を提供し、市民の生命と健康を守る病院を建設。

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

<b>事業効果又は進捗状況</b>	<p>27年5月に移転開院。安心安全で質の高い医療の提供により、市民福祉の向上が図られているほか、診療科の再編・新設等を行ったことにより、移転前と比べて医師や看護職員、医療技術職員等を約120人増員するなど、業務機能の集積促進と中心市街地内での従業員の増に寄与した。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：－ 事業による効果：約120人</p>
-------------------	---

### ⑧. 交通局電車施設整備事業（鹿児島市）

<b>事業完了時期</b>	平成26年度【済】
<b>事業概要</b>	<p>本市の重要な公共交通機関である市営電車の運行拠点施設等を中心市街地を代表するいづろ・天文館と鹿児島中央駅の延長上であるJT跡地に整備し、車両基地、設備の改良等により機能の拡充を図り、LRT車両等の効率的・効果的なメンテナンスと運行ができる体制を整える。</p>
<b>事業効果又は進捗状況</b>	<p>27年5月に供用開始し、資料展示室を活用した見学コースを設けたほか、電車運転体験イベント等を実施するなど、来街者の増に向けた取組を推進した。また、区域外からの移転により、交通局職員約190人が新施設での業務を開始するなど、業務機能の集積促進と中心市街地内での従業員の増にも寄与した。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：－ 事業による効果：約190人</p>

### ⑨. 【追加】鹿児島銀行新本店ビル建設事業（株鹿児島銀行）

<b>事業完了時期</b>	平成31年度【実施中】
<b>事業概要</b>	<p>鹿児島銀行本店ビルを建替え、市内に分散している業務機能等を集約し金融サービスの一層の充実を図るとともに、同ビル内に商業施設を整備。</p>
<b>事業効果又は進捗状況</b>	<p>28年度に立体駐車場が完成したほか、本館と泉町別館の解体に着手した。事業は31年度に完了する予定であり、2期計画期間内での事業効果は見込めない。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：－</p>

## [5] 中心市街地活性化の課題

### (1) 中心市街地を取り巻く状況

#### ➤ 全般

- 中心市街地においては、これまでの取組により一定の成果があった。
- 市全体の約3割を占めている中心市街地の小売業年間商品販売額が伸び悩んでいる。
- 中心市街地内の小売店舗数は微減傾向にある。
- 全産業に占める第三次産業従業者数の割合は、全国78%に対し、本市87%、中心市街地96%となっている。
- 本市における第三次産業従業者数及び事業所数は、減少傾向となっている。
- 中心市街地には観光関連産業が集積しているが、事業所数及び従業者数が減少している。
  - ・業種別事業所数では、中心市街地は市全域や全国に比べ、「宿泊業、飲食サービス業」の割合が高く、「卸売業、小売業」と合わせると55.8%と半数を超えている。
  - ・業種別従業者数では、中心市街地は市全域や全国に比べ、「宿泊業、飲食サービス業」、「サービス業（他に分類されないもの）」の割合が高く、「卸売業、小売業」と「宿泊業、飲食サービス業」を合わせた割合は4割を超えている。
  - ・「宿泊業、飲食サービス業」の事業所数及び従業者数は減少している。
- 市の人口は平成25年をピークに減少し、今後さらなる人口減少が見込まれる。
- 中心市街地の人口は増加傾向が続いているが、中長期的には減少が見込まれる。
- 本市の所得水準は、県庁所在地46都市（東京都を除く。）中32位である。（H25 総務省「市町村税課税状況等の調」）また、本県の最低賃金額改定ランクは、全国最低ランクのD区分である。

#### ➤ 商業面

- 中心市街地の歩行者通行量は、18年から24年にかけて増加を続けてきたが、25年に一旦減少した後、ほぼ横ばいで推移している。
- 中心市街地への来街頻度は、「ほとんど毎日」28.3%、「週2～3回」19.9%と、合わせて約半数の来街者が日常的に中心市街地を利用している。（28年度回遊性・満足度調査）
- 5年前より商業面での活気・魅力が増していると回答した市民が半数以上いる一方で、5年前と比べると、市民の中心市街地への来街機会は減少している。（29年度まちかどコメンテーター）
- 中心市街地への主な来街目的の1位は「買い物」35.8%である。（28年度回遊性・満足度調査）
- 中心市街地は「魅力ある店舗や飲食店があるまち」であってほしいと答えた市民の割合は75.0%と最も高い。（29年度まちかどコメンテーター）
- 中心市街地には一定の都市機能が集積しているものの、大規模小売店舗は中心市街地内より郊外において増加している。
- ネット通販を利用する人が以前と比べて増加するなど、消費者の購買動向に変化がみられる。（27年度鹿児島県消費者購買動向調査など）
- 中心市街地の空き店舗率は一旦改善したものの近年増加傾向にある。
- 中心市街地活性化に必要な取組として「空き店舗対策」と答えた来街者が2番目に多い。

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

(30.3%、28年度回遊性・満足度調査)

- 女性向け起業セミナーの申込状況や本市が実施した大学生の進路希望調査の結果などから、起業・ベンチャーに関心や意欲を持つ女性・学生が一定数存在すると考えられる。
- 本市に存在する、不特定多数が利用する大規模建築物のうち、耐震性が不足する建築物13棟中6棟が中心市街地に存在している。

### ➤ 観光面

- 入込・宿泊観光客数ともに着実に増加している。
- 外国人宿泊観光客（インバウンド）が急増している。
- 中心市街地には、歴史的・文化的資源があるほか、世界文化遺産や桜島・錦江湾ジオパークにも近接しており、豊かな地域資源に恵まれており、観光に対するニーズがある。
  - ・国内の来鹿経験者を対象にしたアンケート調査では、本市訪問の主な目的は「観光・レジャー」78.5%である。(第3期観光未来戦略策定基礎調査)
  - ・東アジア5都市（上海・ソウル・釜山・台北・香港）居住者の訪日経験者を対象にしたアンケート調査では、「鹿児島訪問時にしたいこと」は、「自然・景勝地観光」が65.8%で最も多く、次いで「日本食」が59.2%、「温泉入浴」が52.2%などとなっている。(同上)
- 23年の九州新幹線全線開業以降、宿泊観光客数は増加傾向にあるものの、県外からの国内宿泊観光客数は伸び悩んでいる。
- 中心市街地は「観光客でにぎわうまち」であってほしいと答えた市民の割合は50%である。(29年度まちかどコメンテーター)
- 中心市街地の魅力を十分に生かし切れていない。
  - ・中心市街地に来街した観光客にとって、自然、歴史・文化、世界文化遺産といった観光資源は、本市への来訪動機9項目のうち、5位、7位、9位である。(28年度回遊性・満足度調査)
  - ・地域経済分析システム（RESAS）の目的地検索ランキング（自動車利用）では、中心市街地内で歴史を感じられる観光地である西郷銅像はランクに入っておらず、維新ふるさと館も平日・休日ともに11位である。
  - ・クルーズ船の寄港は年々増加しているものの、行程には中心市街地外の無料の展望施設や外資系の免税店等が多く、中心市街地での観光消費につながっていない。
- 中心市街地で国際クルーズ船を受け入れられるよう、ウォーターフロント地区の鹿児島港本港区北ふ頭で保安施設の整備等を行った。
- 中心市街地へは、仕事で訪れる来訪者が一定数いる。
  - ・国内の来鹿経験者を対象にしたアンケート調査では、本市訪問の主な目的はビジネスが10.9%となっている。(第3期観光未来戦略策定基礎調査)
  - ・県外からの来街者の本市来街動機の1位は、24.2%で仕事である。(28年度回遊性・満足度調査)
  - ・28年の県外からの本市来訪者を都道府県別にみると、休日は、1位が福岡県、2位が宮崎県、3位が熊本県となっている。平日は、1位が福岡県、2位が東京都、3位が宮崎県であり、5位に神奈川県がランクインしており、ビジネス客が多いと予想される。(地

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

域経済分析システム (RESAS))

- コンベンションの開催件数が伸び悩んでいる。
- 観光案内機能など受入体制の充実を求める声がある。
  - ・観光案内機能を有する天まちサロンの利用者数は堅調に推移しているものの、利用者や商店街から「場所が分かりにくい」、「移転を検討してほしい」等の声も聞かれる。
  - ・活性化に必要な取組として「イベントの実施」と答えた来街者が 39.1%と最も多い。(28年度回遊性・満足度調査)
  - ・天文館に必要な施設として「休憩スペース」「ベンチ」を挙げる人が多い。(26年度 We Love 天文館協議会商店街診断))

### ➤ 公共交通などその他の面

- 公共交通機関の利便性を求める声があるが、利用者は減少している。
  - ・中心市街地は「公共交通機関の利便性が高いまち」であってほしいと答えた市民の割合は 62.2%である。(29年度まちかどコメンテーター)
  - ・鹿児島駅の乗客数は減少傾向にある。市電の利用者数は一旦減少した後、持ち直しているものの、市バスの利用者数は減少傾向が続いている。
  - ・中心市街地への来街手段は、バス 22.4%、市電 6.8%、JR7.8%、船 3.1%で約 4割となっている。(28年度回遊性・満足度調査)
- 中心市街地は、近接する世界文化遺産や桜島・錦江湾ジオパークへのアクセス拠点となっている。
- 中心市街地は「公園や広場など憩いややすらぎのあるまち」であってほしいと答えた市民の割合は 45.7%である。(29年度まちかどコメンテーター)
- 本市は、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの考えのもと、さらなるコンパクトなまちづくりを進めるため、29年3月に立地適正化計画を策定した。

(2) 中心市街地活性化の課題

① 商業・サービス機能が相対的に低下

中心市街地外の大型商業施設の増加やネット通販の影響などにより、中心市街地では空き店舗が増加傾向にあるなど、中心市街地における商業の集積度合いが相対的に低下し、市民の来街機会が減少している。

○多様な都市機能のさらなる充実を図ることが必要

- ・安全・安心で魅力ある商業機能の整備
- ・街なか居住の推進
- ・業務機能のさらなる充実
- ・憩いややすらぎのある空間のさらなる充実

○集客力を高めるための仕掛けづくりが必要

- ・街なかへの出店・創業を促す取組
- ・民間主導によるにぎわい創出の取組
- ・活気あふれる商店街づくり
- ・公共交通の環境整備など回遊性向上に向けた取組

② 観光客が滞在するための機能・取組が不十分

今後、市全体でさらなる人口減少が見込まれ、個人消費の縮小など地域経済への影響が懸念される中、観光客をさらに増加させ、観光消費の拡大につなげる必要があるが、中心市街地に滞在させるための機能・取組はまだ十分とは言えない。

○本市の多彩な地域資源を生かした観光の魅力向上が必要

- ・観光拠点の整備

○国内外からの観光客を中心市街地に誘致し、受け入れるための取組が必要

- ・宿泊観光客を増やす取組
- ・滞在時間を増加させる取組
- ・クルーズ船の誘致の取組
- ・観光案内機能など受入体制の充実に向けた取組
- ・コンベンション、各種イベントなど、MICEの誘致強化に向けた取組

## 〔6〕中心市街地活性化の方針

### (1) 上位計画・関連計画における中心市街地のまちづくりの方向性

#### ① 第五次鹿児島市総合計画後期基本計画（平成29年度～平成33年度）

人が行き交う魅力とにぎわいあふれるまち【にぎわい交流政策】

#### 1. 地域特性を生かした観光・交流の推進

##### 1) 観光・コンベンションの振興

観光客のニーズを踏まえた戦略的な情報発信により、本市への誘客を図るとともに、地域の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘致・受入体制のさらなる充実、イベントの振興や各種コンベンションの誘致などにより観光・コンベンションの振興を図ります。

##### 2) 世界文化遺産やジオパーク等を活用したインバウンド観光の推進

東アジアや東南アジアを中心に世界を視野に入れた観光プロモーションや受入体制の充実を図るとともに、世界文化遺産やジオパークという世界に誇りうる歴史・文化・自然などの多彩な魅力を生かした、戦略的かつ広域的な取組を推進します。

##### 3) 国際交流の推進

市民、関係団体などと連携・協働しながら、姉妹友好都市をはじめ、著しい成長を遂げているアジア諸国など多くの国々と多彩な交流を進めるとともに、市民と在住外国人がお互いに認めあい、学びあう国際意識の高揚などを通じ、国際交流を推進します。

##### 4) スポーツ・ツーリズムの推進

鹿児島ユナイテッドFCなどのプロスポーツチーム等への活動支援や、鹿児島マラソン等のスポーツイベントの開催など、魅せるスポーツコンテンツづくりを推進します。また、本市のスポーツ振興や魅力の情報発信につながるスポーツキャンプの誘致・受入を推進します。

#### 2. 中心市街地の活性化

##### 1) にぎわい創出と回遊性の向上

中心市街地の既存の社会資本を生かしたにぎわい創出拠点の整備や都市空間の有効活用を推進し、都市機能のさらなる充実を図ります。また、新たな魅力として、市民が憩える都市の杜の創出を図るとともに、特色ある公共交通を生かし、来街しやすく気軽にまち歩きを楽しめる回遊性のあるまちづくりを推進します。

##### 2) 都市型観光の振興

商業等が集積する中心市街地において、歴史や文化、自然、食、ショッピング、イベントなどを楽しめる個性ある都市型観光を展開し、国内外から多くの観光客が訪れる魅力多彩な活気あるまちづくりを推進します。

##### 3) 商業・業務機能の集積促進

中心市街地の最大の魅力である商業機能や、多くの市民や観光客を受け入れ、そのニーズを十分に満たすためのサービス機能の充実を図るとともに、働く場として業務機能のさらなる集積を図り、快適で楽しく過ごせる多面的な魅力とにぎわいあふれるまちづくりを推進します。

#### 3. 地域産業の振興

##### 1) 商業・サービス業の活性化

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

事業革新や産業間の連携等を促進するとともに、経営基盤の強化及び人材の育成に努め、地域の特性やニーズに対応した商業・サービス業の活性化を図ります。

### 2) 工業・地場産業の活性化

地域資源を生かしたものづくりや製品の高付加価値化への支援、国内外への販路拡大を図るとともに、新産業の創出や新規創業者等の育成支援、企業立地の推進により、工業・地場産業の活性化を図ります。

### 4) 雇用環境の充実

企業立地の推進や創業支援等を通じて、雇用の場を創出するとともに、職業能力の開発や企業との適切なマッチング等により人材の育成・確保を図ります。また、ワーク・ライフ・バランスの推進による働きやすい職場づくりなどにより、若者や女性等の就労を促進します。

## ② 鹿児島市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略（平成27年策定、28年改訂）

### 1. 基本目標

#### 3) まちの魅力を「みがく」

域外の消費需要を呼び込む交流人口の拡大

### 2. 重点戦略

#### 1) 世界基準の観光地域づくり

世界に誇りうる地域資源の活用

外国人観光客の誘致・受入体制の整備

### 3. 積極戦略

#### 2) まちなかのにぎわい創出

集客力・回遊性の向上、新たな都市拠点の形成

## ③ かごしま都市マスタープラン（平成13年～平成33年）

### 1. 都市計画の目指す将来像

21世紀・地球時代に輝きを放つ交流拠点都市

～みんなで、ふれあい、かよい、はぐくむまち・かごしまをめざして～

### 2. 都市づくりの基本理念

○かごしまの魅力を再発見し、活かす都市づくり

○市民とともに手を携えてつくる都市づくり

### 3. 土地利用・市街地整備の方針

#### ○中心商業業務ゾーン

・鹿児島中央駅周辺地区においては、鹿児島中央駅総合交通ターミナルと一体となった南部地区や西口周辺の再開発を促進します。

・いづろ・天文館地区においては、バリアフリーに配慮した歩道整備、カラー舗装、電線類の地中化、ポケットパーク・コーナー広場の設置、商店街アーケードの整備促進など、かごしまの顔、広域交流拠点として、歩いて楽しくにぎわいに満ちた鹿児島らしい交流空間を形成します。

・いづろ・天文館地区の都心商業拠点エリアにおいては、容積率の見直しや特例容積率

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

適用地区制度の活用など土地の高度利用による商業業務施設の集積を促進します。

- ・都心居住を回復するため、総合設計制度や中高層階住居専用地区など特別用途地区の活用を図ります。
- ・中央町 23 番街区市街地再開発事業など商業施設と都市型住宅の複合した再開発を促進します。
- ・名山地区など木造建築物の密集地においては、生活のたたずまいや横丁の雰囲気を残しつつ、市街地再開発事業や建築物の更新・共同化の誘導により都市型住宅の整備を促進します。
- ・少子・高齢社会に対応した社会福祉施設等と一体となった住宅の整備について検討します。
- ・鹿児島駅周辺地区においては、かごしま発祥の地としての歴史性や眼前の桜島、錦江湾の景観を活かし、旧国鉄用地等を活用した鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業や鉄道の高架化により、陸の北の玄関口・海の玄関口としての交通機能の強化とにぎわいのある新たな都市拠点を形成します。
- ・易居町など木造建築物の密集地においては、港町としての雰囲気を残しつつ、地域の利便性を活かした市街地再開発事業や優良建築物等整備事業などにより都市型住宅への建替えを促進します。

### ○広域交流・業務ゾーン

- ・本港区においては、鹿児島港本港区ウォーターフロント開発基本計画の促進等による、雄大な桜島や市街地中心部に隣接した立地性を活かした商業・業務施設の立地誘導、人と海がふれあえる公園・広場の整備、多彩なイベントの開催等により、活気ある交流空間を形成します。
- ・市役所周辺地区においては、県民交流センターや、消防庁舎・市民福祉プラザ、歴史・文化ゾーンなど人の集まる資源を生かし、にぎわいのある広域交流・業務ゾーンを形成します。
- ・城山周辺地区、祇園之洲、磯・多賀山地区においては、地区計画等を活用し良好な都市景観を保全します。

## ④ 鹿児島市商工業振興プラン（平成 23 年度～平成 33 年度）

### 1. 本市商工業の将来像

#### 多彩な人と 豊かな資源で 織りなす にぎわい活力都市・かごしま

本市商工業が将来に向けて、持続的に発展していくため、多様な業種の様々な能力・技術を有する「多彩な人」が、農林水産物、自然風土、歴史・文化、伝統技術などの「豊かな資源」を最大限に生かし、多様な主体との連携・協働等により、新たな魅力・価値を「織りなす」ことで、南九州の中核都市として、「にぎわいと活力」あふれるかごしまの創造を目指します。

### 2. 商工業振興の方向性

#### ■商工業振興の方向性 1

#### かごしまの地域資源・特性を生かした産業の活性化

豊かな農林水産資源等の「素材」を生かして本市商工業の競争力を高めるとともに、

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

地域資源やアジアとの近接性などの特性を生かして、国内外との「交流」、「観光」の促進を通じた産業の活性化やアジアを中心とした海外との取引強化に取り組みます。

### ■商工業振興の方向性3

#### かごしまを支える産業の成長促進

社会経済情勢の変化による消費動向の変化やニーズの多様化に対応し、本市商工業の中核をなす商業・サービス業の活性化を図るとともに、伝統産業の事業革新等による活性化や都市機能の集積などのポテンシャルを生かした産業の振興に取り組みます。

### ■商工業振興の方向性4

#### かごしまの将来を担う企業・人材の育成

事業者が抱える課題の解決を図り、刻々と変化する社会経済情勢に対応するため、関係機関のネットワークを強化して、企業経営の安定と革新を支援するとともに、新たなチャレンジへの支援と人材の育成・確保に取り組みます。

## ⑤ 第3期鹿児島市観光未来戦略（平成29年度～平成33年度）

### 1. 基本目標

#### 鹿児島県の経済成長のエンジンとなる稼ぐ観光の実現

基本目標である「稼ぐ観光の実現」のためには、事業者の活躍が重要です。市民と行政は、事業者が効果的な活動をしやすい環境づくりに努めるとともに、官民一体となり観光産業の振興が本市の経済発展につながるよう取り組みます。

### 2. 基本戦略

#### 【基本戦略1】新しい魅力づくり ～世界から選ばれるKAGOSHIMAを目指して～

基本方針(1) 世界に誇れる自然と景観のブランド化

基本方針(2) ストーリー性のある歴史と文化の魅力の深掘り

基本方針(3) 観光資源・イベントの充実による年間を通じた集客力の向上

基本方針(4) 多様なニューツーリズムの推進とMICEの誘致強化

#### 【基本戦略2】攻めの情報発信・誘客 ～戦略的なプロモーションの展開～

基本方針(1) 戦略的な国内外へのプロモーション

基本方針(2) 鹿児島県ならではの魅力の国内外への情報発信

#### 【基本戦略3】受入体制の充実 ～快適で安全な観光視点のまちづくり～

基本方針(1) 総おもてなしのまち鹿児島づくり

基本方針(2) 国際観光都市としての基盤強化

基本方針(3) 安心して観光できる防災対策・災害時対応の強化

### 3. 横断的に取り組む3つの強化プロジェクト

#### I 稼ぐ力の強化プロジェクト

① マーケティングによる観光戦略の推進

② 稼ぐ民間事業者（観光トップランナー）の支援・連携

③ DMOによる官民連携事業の検討

#### II インバウンド対応の強化プロジェクト

① メインターゲットの拡大

② 幅広い視点による誘致

## 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

③ 安心して観光できる受入環境の整備

### Ⅲ 広域連携の強化プロジェクト

① 南九州における“県都”連携や沖縄・奄美等との“黒潮”連携

② 超広域での連携



中心市街地の活性化は、第五次鹿児島市総合計画後期基本計画の基本目標「人が行き交う魅力とにぎわいあふれるまち」を達成するための基本施策として位置付けられており、また、鹿児島市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略では、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出することとしている。

中心市街地の各地区においては、かごしま都市マスタープランで示された土地利用・市街地整備の方針を踏まえ、活性化に資する各種事業の展開を図る。

(2) 中心市街地活性化の方針

2期計画では新幹線効果を持続・拡大させ、交流人口のさらなる増大を図るための各種プロジェクトを実施したことにより、大型商業施設の増床、新市立病院の建設、都市の杜の整備など都市機能の集積が進み、新たな大型イベント等のソフト事業も官民一体となって展開したことで、年間入込観光客数は着実に増加し、歩行者通行量も鹿児島中央駅地区で増加傾向にあるなど、本市の中心市街地は一定の活性化が進んでいる。

一方、目標指標に掲げた歩行者通行量と第三次産業の従業者数の目標達成は厳しい状況にある。また、市街地再開発事業など一部事業で完了時期が延期となったことで、事業効果が十分に発現されていない面もある。その他、この10年間で、小売店舗数は減少し、小売業年間商品販売額は伸び悩み、空き店舗率は一旦改善したものの増加傾向にあるなど、本市の経済活動の中心的役割を担う中心市街地を取り巻く環境は依然厳しい状況にあると考えられる。

新たに策定する3期計画では、上位計画・関連計画における中心市街地のまちづくりの方向性との整合を図りながら、中心市街地を取り巻く環境や地域の現状分析、地域住民のニーズ等から導き出された主に商業面、観光面での課題の解決に取り組むこととし、本市中心市街地が目指す都市像を「観光・商業・交流によるにぎわいあふれる次代のまちづくり」と定め、その達成に向けた2つの基本方針を設定する。

① 本市中心市街地が目指す都市像

**「観光・商業・交流による にぎわいあふれる次代のまちづくり」**

② 基本方針

**基本方針1： 個性と魅力に磨きをかけてにぎわいあふれるまちづくり**

商業機能をはじめとする多様な都市機能のさらなる充実を図るとともに、街なかへの出店・創業を促す取組や活気あふれる商店街づくり、民間主導によるにぎわい創出を進めるほか、来街しやすく気軽にまち歩きを楽しめる取組や特色ある公共交通の環境整備なども進めることにより、「個性と魅力に磨きをかけてにぎわいあふれるまちづくり」を推進する。

**基本方針2： 国内外から選ばれる魅力ある観光地づくり**

本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客、受入体制の充実に努めるなど、高い経済効果を生み出す国内外からの観光客をこれまで以上に増加させるとともに、滞在時間を増やす取組を進めることにより、「国内外から選ばれる魅力ある観光地づくり」を推進する。

# 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

## ●2期計画の概要

- ・期間：平成25年4月～30年3月（5年）
- ・掲載事業：87事業（完了：19事業、実施中：68事業）（※H29.11時点）

### 【コンセプト】

「観光・商業・交流による にぎわいあふれるまちづくりの推進」

### 【基本の方針】

- (1) 気軽にまち歩きを楽しめる回遊性のあるまちづくり
- (2) 人々が住まい、集い、活気のあるまちづくり
- (3) 多面的な魅力とにぎわいあふれるまちづくり

### 【目標】

- (1) 街なかのにぎわい創出と回遊性の向上
- (2) 都市型観光の振興
- (3) 商業・業務機能の集積促進

## ●中心市街地の現状

- ・年間入込観光客数は着実に増加し、歩行者通行量も鹿児島中央駅地区で増加傾向にあるなど、一定の活性化が進んでいる。
- ・一方、目標指標に掲げた歩行者通行量と第三次産業の従業者数の目標達成は厳しい状況にある。
- ・この10年間で、小売店舗数は減少、小売業年間商品販売額は伸び悩み、空き店舗率は一旦改善したものの増加傾向にある。

## ●市民意向

### 【にぎわいの状況】

来街者：総じて賑やかになってきているとの意見が多い。

商業者：いづろ・天文館地区は改善に繋がっていないとの意見が多く、鹿児島中央駅地区は一定のにぎわいが保たれているとの意見が多い。

### 【活性化の取組】

来街者：必要な取組として「イベントの実施」や「空き店舗対策」と回答した人が多い。

民間事業者等：MICE誘致の強化、大型バス（クルーズ船の乗客など）の乗降場所の整備を求める意見。民間が自主的に取り組むことの重要性についての意見。

## ●中心市街地活性化の課題

### (1) 商業・サービス機能が相対的に低下

- ・多様な都市機能のさらなる充実を図ることが必要
- ・集客力を高めるための仕掛けづくりが必要

### (2) 観光客が滞在するための機能・取組が不十分

- ・本市の多彩な地域資源を生かした観光の魅力向上が必要
- ・国内外からの観光客を中心市街地に誘致し、受け入れるための取組が必要

### 【本市中心市街地が目指す将来像】

「観光・商業・交流による にぎわいあふれる次代のまちづくり」

## ●3期計画の基本方針

### (1) 個性と魅力に磨きをかけてにぎわいあふれるまちづくり

- ・商業機能をはじめとする多様な都市機能のさらなる充実
- ・街なかへの出店・創業を促す取組
- ・活気あふれる商店街づくり
- ・民間主導によるにぎわい創出の取組
- ・来街しやすく気軽にまち歩きを楽しめる取組
- ・特色ある公共交通の環境整備 など

### (2) 国内外から選ばれる魅力ある観光地づくり

- ・本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上
- ・国内外からの誘客強化
- ・観光客の受入体制の充実
- ・滞在時間を増やす取組 など